



東海大学チャレンジセンター

# 2012年度 活動報告書

Tokai University  
Student Project Center  
Activity Report  
2012

 東海大学チャレンジセンター

〒259-1292  
 神奈川県平塚市北金目4-1-1  
 Tel: 0463-58-1211 (代)  
 Fax: 0463-50-2472  
 Mail: challenge@tsc.u-tokai.ac.jp  
 URL: <http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/>



# 2012年度チャレンジセンター活動報告書の発行にあたって

チャレンジセンター所長  
大塚 滋

発足7年目に入ったチャレンジセンターの活動を報告する本書を発行するにあたり、今年度とくに力を込めて行った新たな取り組みについて言及しておきたい。

それは何よりもプロジェクト用の評価指標（ルーブリック）の策定と運用の準備を行ったことである。当センターの授業では「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の養成を目的とした教育を常時自覚的に行ってきたが、同じ目的をもつばら実践的に遂行するはずのプロジェクト活動支援においては、これまで、残念ながら必ずしもその効果を客観的に確認できる方法でその教育を行ってこなかった。確かに、センターは様々な機会に学生諸君に対してその理念を語り続け、コーディネーターも地道な日常的なコミュニケーションの中でそれを学生諸君に伝えてはいた。しかし、プロジェクト全体の活動成果は客観的に確認できた一方、個々のプロジェクトメンバーに三つの力がついたかどうか、については、身近にいる我々教職員の感想、感触のレベルを超えるものではなく、修了認定条件も、会議参加回数など、容易に計測できる外的、形式的なものに限られていて、我々が謳っている力の修得の指標としてはかなり偏っていたと言わざるを得なかったのである。また、中間報告会、最終報告会でのプレゼンテーションにおいても、学生たちが理解している「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の中身が、センターが定義するそれらから、大きく隔たっていること、いや、我々の教育がプロジェクト支援に関しては上滑りしていた、ということを確認しなければならない場面が少なからずあった。

チャレンジプロジェクトとクラブ・サークル活動との違いはどこにあるのか、と問われることがしばしばある。我々はそのたびにチャレンジプロジェクトの教育的側面の大きさを強調してきたのだが、それは実は実態に即していなかったのかもしれない。だが、その実態に我々が全く気づいていなかった訳ではない。言語化しなかった

だけである。それは、言語化することによって教育という大きな負荷を引き受ける覚悟がなかったからかもしれない。我々は大学の教育改革を最終目的に掲げていたにもかかわらず、である。チャレンジセンター運営委員会が今年度、その我々に目を覚ますきっかけを与えてくれた。修了認定要件の過度の形式性を指摘してくれたのである。

我々は、その後、プロジェクト支援を真の教育プログラムにするためには、いかなるツールが必要かを考え、最終的に、ある程度客観的な評価指標こそがそれだと確信するに至った。ただ、それは、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」をいくつかの構成要素にブレイクダウンしていなければならないとはいえ、職員であるコーディネーターが用いるツールであるから、三つの力に関する授業の担当教員が用いているような詳細なものはふさわしくない。しかも、第一義的には学生自身による自己評価のための、そして成長実感を得るための指標と位置づける必要があり、それをコーディネーターがチェックし、それを踏まえた指導をすることによって、三つの力をより適切に涵養することができるものと考えた。現在、センター教職員が協力してその細部を検討し、2014年度からの実施を計画している。この評価指標の本格的導入には、乗り越えなければならないさまざまな困難があるが、それを乗り越えれば、教職協働での組織的かつ客観的な社会人基礎力教育を実現することができると思えようし、職員が関わる教育の実践という意味で、大学の教育全体を改革する一つの方向性を示すこともできるのではないかと、考える。

チャレンジセンターは、この1年間、様々な成果を上げ、いくつかの改革を行ってきた。ぜひこの報告書を通読し、それを確認していただきたい。そして、まだ足りないところなどについてご叱正を賜りたい。

2013年3月

## INDEX

2012年度チャレンジセンター活動報告書の発行にあたって	1
チャレンジセンターとは	3
チャレンジセンター運営体制	5
プロジェクトコーディネーター・アドバイザー	7
2012年度のチャレンジセンターの活動	9
リーダー研修	11
2012年度チャレンジプロジェクト活動報告	12
ユニークプロジェクト	29
チャレンジセンター開講科目	31
FD研究会	41
ミニセミナー	43
広告媒体物 (ポスター・チラシ・パンフレット・フリーペーパー)	45
ニュースリリース(湘南校舎)	47
メディア一覧	48
2012年度活動一覧	49

# チャレンジセンターは、多様な人々との関わり合いの中から自ら考え「集い力・挑み力・成し遂げ力」を身に付けた社会に貢献できる人を育てます。

国際化と情報化が進行し、多様性が増した社会情勢において、大学が担うべき役割に変革が求められています。

これまでの大学は、各分野に特化した専門性を身に付けさせる場としてその役割を担ってきましたが、近年は、人間力を養成する場としても使命を拡大しており、カリキュラムにもチームで課題に取り組むPBL<sup>※a</sup>型授業などが積極的に導入されつつあります。このような大学における教育改革の背景には、高校生の半数以上が進学する大学の大量化、インターネットの発達により、仲間とFace to Faceで語り合う場の減少に伴う学生の孤立化、それらを要因とした大学生の質の変化があげられます。それとともに、企業が必要とする人材と大学が輩出する学生の実態にはミスマッチが生じており、教育の場で人間力育成が重視されるのもこの隔たりを埋める試みといえるでしょう。

本学は、他大学の教育改革に先駆けて、「集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につけた社会に必要とされる人材を育成する」という教育理念のもと、2006年にチャレンジセンターを発足いたしました。2012年度は、チャレンジセンター開講科目（ジャーナリズムを含む）（P31参照）を5校舎112科目5359人が受講し、5校舎より43プロジェクト（チャレンジプロジェクト<sup>※b</sup> 17件、ユニークプロジェクト<sup>※c</sup> 26件）1132<sup>※d</sup>人が参加しました。さらに、本センターは、年間を通じ、プロジェクトの目標達成と「重視する学びのテーマ」を積極的に実践した学生に対し、本センターの教育理念である3つの力を体得したことを認める「修了認定証<sup>※e</sup>」を授与し、今年度は15プロジェクト536人に贈りました。

その他にも、本センターでは発足当初より大学職員も教育を担う一員として、プロジェクトにコーディネーター（P7・8参照）という立場で活動に関わり、アドバイザー教員と共に学生支援のための支援体制を構築してきました。また、コーディネーターに対し、プロジェクト教育の理解を深めるオリジナルの研修を実施し、特徴あるSD<sup>※f</sup>活動を続けています。

これからも本学は、総合大学として多様な学部・学科における専門性と、社会的実践力を身に付けさせる本センターの教育プログラムを連携させていくとともに、大学に求められている時代のニーズに柔軟に耳を傾けながら、本学が担うべきUSR<sup>※g</sup>を果たしていきます。

※a PBL(Project Based Learning)・・・現実の問題または課題についてチームで解決する学習法  
 ※b チャレンジプロジェクト・・・学生主体で自由な企画を立案し、大学職員によるプロジェクトコーディネーター、教員によるプロジェクトアドバイザーの支援を受けながら年間を通じた活動を実施。複数学科に横断してメンバーが構成されていること、参加人数が50名以上であることを応募要件としています。（参加人数は校舎によって異なる） P12より参照  
 ※c ユニークプロジェクト・・・少数のグループで、将来的にチャレンジプロジェクトとして発展することを目的とした萌芽的位置づけのプロジェクト。P29・30参照  
 ※d 2012年7月1日を基準  
 ※f SD (Staff Development)・・・授業開発などの教員による「FD」に対し、大学職員として学生支援に必要な能力を高めるための研修会やミーティングなどの実施  
 ※g USR (University Social Responsibility:大学の社会的責任)・・・チャレンジセンターは社会の現状と向き合い、社会的実践力を身に付けた人材を育成する汎用性の高い教育モデルを創出することをUSRと捉えています。

**大学生をとりまく社会情勢**

- ・就職内定率の低下
- ・卒業後のキャリアデザインを描くことが困難
- ・大学の大量化
- ・学生の質の変化および個人化

**学部学科で学ぶ専門性**

## 東海大学が育む人材

社会が必要とする人物像

社会的実践力を身につけ  
高い専門性で  
社会に貢献できる

**成し遂げ力**

困難を乗り越えて  
目標を実現する能力

- 工程管理
- 実行と継続
- 分析と修正

マネージメント  
スキル

**挑み力**

難しい課題に  
立ち向かう能力

- 問題発見
- 構想力
- プランニング

リーダーシップ

**集い力**

多様で広範な人々と  
協働する能力

- コミュニケーション
- 関係構築
- アイデンティティ獲得

リーダーシップ

**※e プロジェクト修了認定**

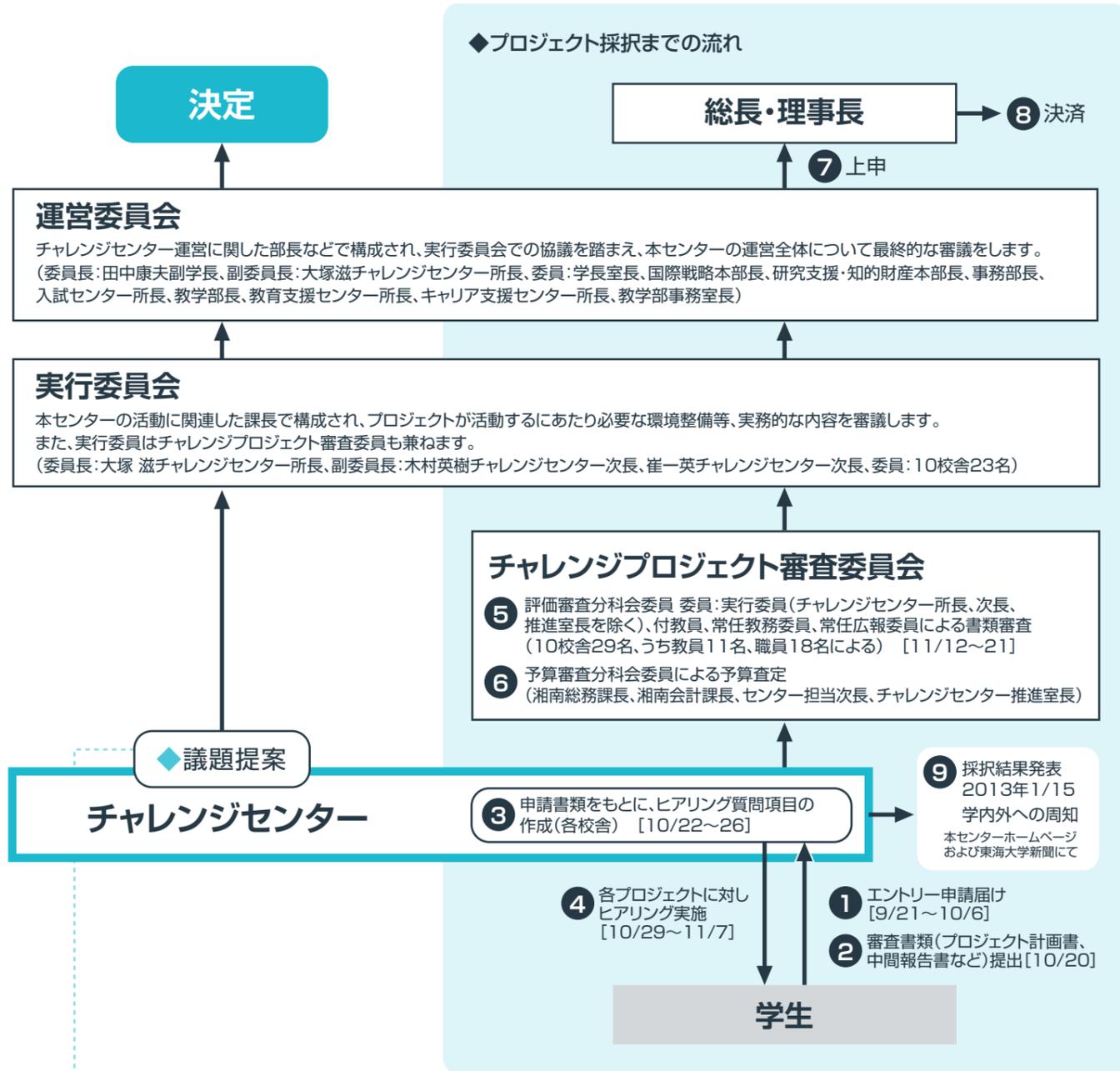
チャレンジプロジェクトが以下の条件（抜粋）を満たし、プロジェクトコーディネーターによって1年間の活躍が評価されたプロジェクトメンバーに授与されます。

- 1 コーディネーターによる推薦**  
1年間のプロジェクトに積極的に参加し、また、その成果に貢献し「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を身に付けたと認められる学生の推薦
- 2 チームとしての条件**
  - ・プロジェクト協議会へのプロジェクトリーダーの出席
  - ・幹部ミーティングの実施(年9回以上)
  - ・中間報告会(10月)および最終報告会(2月)での発表(P9・10参照)
  - ・建学祭での発表
  - ・応募要件のプロジェクトを実施するメンバー数を満たしていること
  - 他10項目
- 3 個人としての条件**
  - ・振り返りシート<sup>※1</sup>
  - ・中間報告会・最終報告会への出席
  - ・参加報告書の提出
  - ・当該年度7/1現在プロジェクトに所属し、活動期間が9カ月以上であること
  - 他2項目

※1 振り返りシート プロジェクトメンバーは、各企画終了後に省察会を開催し、プロジェクトが設定した「学びのテーマ」を踏まえ活動を実施できたかを振り返るシートを作成します。年3回以上コーディネーターが行います。

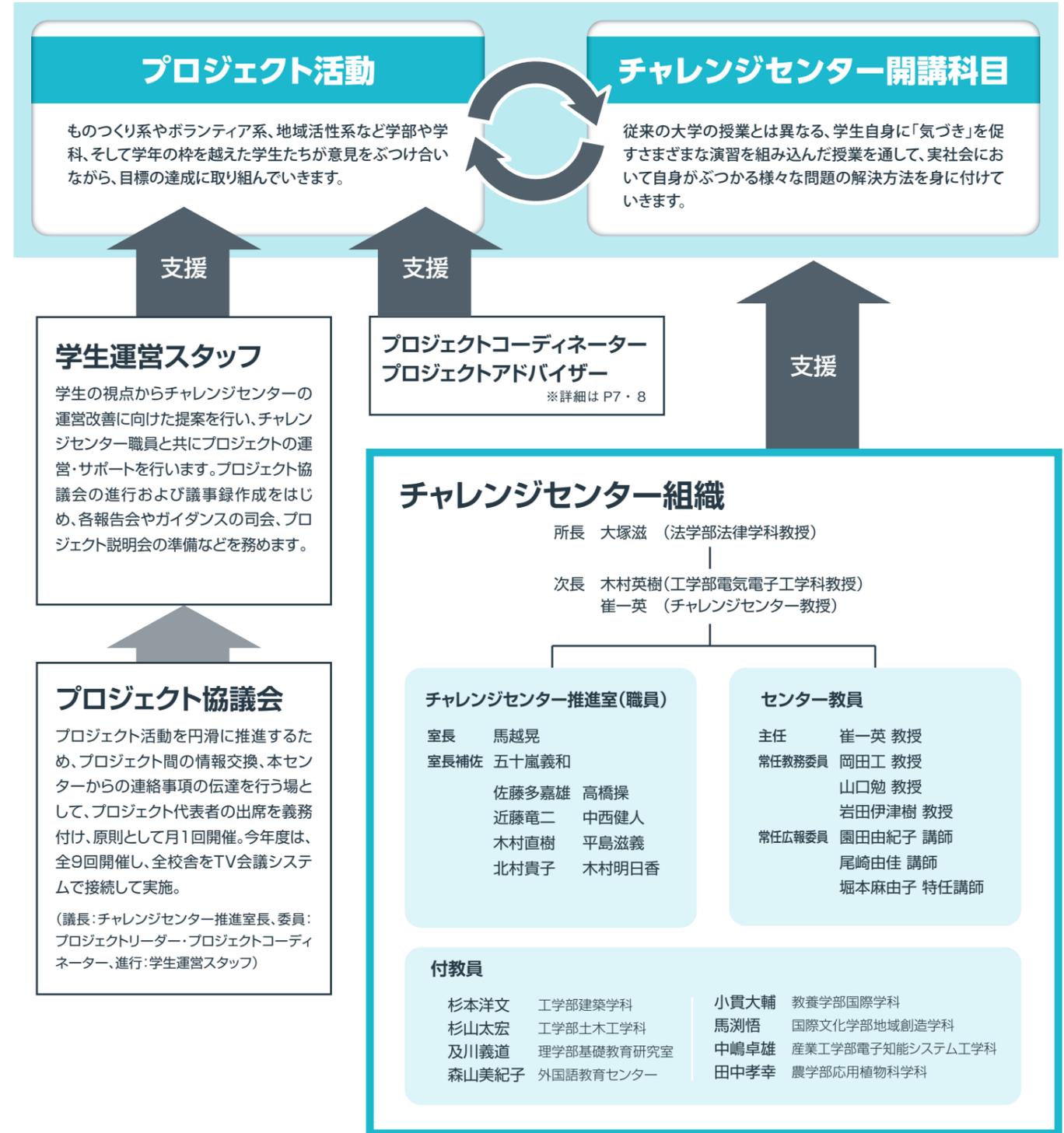
# チャレンジセンター運営体制

本学では、チャレンジプロジェクト採択をはじめとする本センターの事業計画や修了認定、チャレンジセンター科目に関することなどについて審議・決定を行う、チャレンジセンター運営委員会および実行委員会を設置しています。本センターの取組みは、これら委員会の承認を得て実施されました。※2012年度の体制です。



## ◆2012年度の会議開催

	実行委員会	運営委員会	主な議題
第1回	5月11日	5月16日	2011および2012年度プロジェクト支援金について ユニークプロジェクトの採択について 春学期チャレンジセンター開講科目・履修状況
第2回	8月27日	8月29日	2013年度プロジェクト募集要項について
第3回	11月30日	12月7日	2013年度プロジェクト審査・採択について 秋学期チャレンジセンター開講科目・履修状況
第4回	2013年 2月27日	2013年 3月6日	チャレンジプロジェクト修了認定について チャレンジセンター所長賞について



## ◆チャレンジセンターにおける各会議

- ・チャレンジセンターミーティング(月1回)  
(所長、次長、本センター教職員)
- ・教授会(月1回)  
(所長、次長、チャレンジセンター推進室長、本センター教員)
- ・チャレンジセンター推進室会議(週1回)  
(所長、次長、チャレンジセンター推進室職員)

# プロジェクトコーディネーター・アドバイザー

# コーディネーター研修

本学は教員と職員による協働体制で教育支援を推進しています。その一環として、チャレンジセンターでは、プロジェクト活動の質を高め、より高度な目標を成し遂げられるよう各プロジェクトには本学教職員から選抜されたコーディネーターとアドバイザーを配置しています。チャレンジプロジェクトにおいては、コーディネーターとアドバイザーが必ず配置されますが、ユニークプロジェクトでは学生からの支援要請に基づき本センターで審議の上、配置を決定します。

さらに、本センターではプロジェクト支援に活用できるスキル向上を主な目的とした研修会や意見交換会などをコーディネーターとアドバイザーを対象に実施しています。

## プロジェクトコーディネーター

プロジェクトコーディネーターは、プロジェクト全体の進行状況を把握し、活動全般の相談役や提出書類の作成指導を担います。また、予算管理・工程管理に関する指導や、活動が困難な状況の時に円滑に進むよう学生にモチベーションを与える「縁の下の力持ち」的な役割を担っています。なお、コーディネーターは、チャレンジセンターが実施する複数の研修会の受講が義務づけられており、これは本学園人事制度において「業務別研修」と位置づけられた本センターオリジナルのSD活動です。

### 【2012年度 担当者一覧】

担当プロジェクト名	氏名	所属
<b>チャレンジプロジェクト</b>		
ライトパワープロジェクト	佐藤 多嘉雄	チャレンジセンター推進室
3.11生活復興支援プロジェクト	近藤 竜二	チャレンジセンター推進室
東海大学学生ロケットプロジェクト	広瀬 光明	情報システム開発課
Tokai Formula Club	原田 渡	情報システム管理課
スポーツ社会貢献プロジェクト	松永 達也	スポーツ課
サイエンスコミュニケーター	五十嵐 義和	チャレンジセンター推進室
Beijo Me Liga	梅澤 智光	湘南キャリア支援課
Tokai International communication Club	関根 広太	国際教育課
Music Art Project	山下 直也	湘南研究支援課
病院ボランティアプロジェクト	高橋 操	チャレンジセンター推進室
環境キャラバン隊	平島 滋義	チャレンジセンター推進室
キャンパスストリートプロジェクト	木村 直樹	チャレンジセンター推進室
Takanawa共育プロジェクト	植野 一朗	高輪キャリア支援課
先端技術コミュニティACOT	下山 佳祐	九州入学広報課
	福岡 恵	熊本教学課

担当プロジェクト名	氏名	所属
<b>ア蘇援農コミュニティプロジェクト</b>	高橋 誠二	阿蘇教学課
	工藤 哲也	阿蘇事務課
あにまるれすきゅープロジェクト	伊藤 貴人	阿蘇教学課
	神鷹 孝至	農学教育実習場
福祉除雪プロジェクト	池田 隆之	札幌キャリア支援課
	柳沢 篤寛	北海道研究支援課
	三上 早苗	北海道研究支援課
<b>ユニークプロジェクト</b>		
障害者自立支援プロジェクト	後藤 貴志	学長室企画課
DAN DAN DANCE プロジェクト	三橋 雅之	中央図書館図書課
ワンダフルマリニアニマルズ	舟尾 隆	清水教学課
	鈴木 啓司	清水教学課
三保活性化プロジェクト	舟尾 隆	清水教学課
	鈴木 啓司	清水教学課
肥後のたまもの	高倉 智之	熊本事務課
運営スタッフ	中西 健人	チャレンジセンター推進室

## プロジェクトアドバイザー

プロジェクトアドバイザーは、専門的知識または技能を持った教職員が担当し、各プロジェクトに1名以上配置されます。主な役割として、プロジェクト活動に対して専門的な立場から指導・助言を行います。プロジェクトの活動を、より質が高く大きなチャレンジとするためには、プロジェクトアドバイザーの豊富な知識と経験に裏付けられたアドバイスが必要になります。

### 【2012年度 担当者一覧】

担当プロジェクト名	氏名	所属
<b>チャレンジプロジェクト</b>		
ライトパワープロジェクト	平岡 克己	工学部航空宇宙学科
	木村 英樹	工学部電気電子工学科
	福田 結大	工学部航空宇宙学科
3.11生活復興支援プロジェクト	杉本 洋文	工学部建築学科
	大塚 滋	法学部法律学科
	浅嶋 正治	文学部広報メディア学科
	渡川 毅	情報理工学部コンピューター応用工学科
	本田 量久	観光学部観光学科
東海大学学生ロケットプロジェクト	那賀川 一郎	工学部航空宇宙学科
	中藤 恭一	工学部航空宇宙学科
	森田 貴和	工学部航空宇宙学科
Tokai Formula Club	森下 達哉	工学部動力機械工学科
	長谷川 真也	工学部動力機械工学科
	松木 誠一郎	教育支援センター技術支援課
	佐野 秀実	教育支援センター技術支援課
スポーツ社会貢献プロジェクト	伊藤 栄治	体育学部スポーツレジャーマネジメント学科
サイエンスコミュニケーター	岡田 工	チャレンジセンター
	広川 美津雄	教育研究所
Beijo Me Liga	小貫 大輔	教養学部国際学科
Tokai International communication Club	森山 美紀子	外国語教育センター
	田口 香奈恵	国際教育センター
Music Art Project	梶井 龍太郎	教養学部芸術学科
	二宮 洋	教養学部芸術学科
	田丸 智也	高輪教養教育センター

担当プロジェクト名	氏名	所属
病院ボランティアプロジェクト	高原 太郎	工学部医用生体工学科
環境キャラバン隊	藤田 成吉	教養学部人間環境学科
キャンパスストリートプロジェクト	岡田 章子	文学部広報メディア学科
Takanawa共育プロジェクト	福岡 稔	高輪教養教育センター
先端技術コミュニティACOT	中嶋 卓雄	産業工学部電子知能システム工学科
	井手口 健	産業工学部電子知能システム工学科
	松本 欣也	産業工学部電子知能システム工学科
ア蘇援農コミュニティプロジェクト	田中 孝幸	農学部応用植物科学科
あにまるれすきゅープロジェクト	森友 靖生	農学部応用動物科学科
福祉除雪プロジェクト	馬淵 悟	国際文化学部地域創造学科
<b>ユニークプロジェクト</b>		
障害者自立支援プロジェクト	大塚 滋	チャレンジセンター
	尾崎 由佳	チャレンジセンター
Same Same but TOKAI	コリスキー・チャールズ・ユーシオン	外国語教育センター
ロボP	清水 尚彦	組込みソフトウェア工学科
Java Programming Contest in Tokai Takanawa	辛島 光彦	経営システム工学科
Design and Create	村上 祐治	産業工学部建築学科
肥後のたまもの	山崎 松男	経営学部マネージメント学科
	備間 俊彦	経営学部マネージメント学科
熊本地域プロデュースプロジェクト	中嶋 卓雄	産業工学部電子知能システム工学科
	鈴木 康夫	熊本教養教育センター
"sync"スポーツ	大川 康隆	経営学部マネージメント学科
運営スタッフ	馬越 晃	チャレンジセンター推進室

開催	研修名	テーマ・内容	担当	対象・人数他
4月20日	コーディネーター事前研修	①開会にあたり ②チャレンジセンターの発足およびコーディネーターの役割について	①大塚滋(チャレンジセンター所長) ②高橋操(チャレンジセンター推進室)	コーディネーター (5校舎 22名)
5月25日 26日	コーディネーター能力研修	●事例を活用した学生支援の実施と効果 【1日目】 ①開会にあたり ②自己紹介 ③講義「事例を語り合い共有する意義」 ④グループごとに事例報告 ⑤講義「事例の実践への活用方法」 ⑥グループごとの事例報告 【2日目】 ①1日目の振り返り ②講義「体験事例を時間管理に活かす」	①大塚滋(チャレンジセンター所長) ②佐藤多嘉雄(チャレンジセンター推進室) ③⑤堀本麻由子 (チャレンジセンター講師)  ①佐藤多嘉雄(チャレンジセンター推進室) ②尾崎由佳(チャレンジセンター講師)	コーディネーター アドバイザー 8校舎27名 場所:湘南校舎
6月6日	アドバイザーミーティング	①2012年度チャレンジセンター方針説明 アドバイザーの役割について ②チャレンジセンター科目について ・チャレンジセンター開講科目について ・東日本大震災ボランティアの 単位認定状況について ・FD研究会および ミニセミナー開催について ③アドバイザー事例報告(1) 「スポーツ社会貢献プロジェクトに おける報告」 ④アドバイザー事例報告(2) 「ア蘇援農プロジェクトにおける報告」	①大塚滋(チャレンジセンター所長) ②崔一英(チャレンジセンター次長)  ③伊藤栄治(体育学部スポーツ・ レジャーマネージメント学科) ④田中孝幸(農学部応用植物科)	アドバイザー (5校舎11名)
10月15日	中間研修	プロジェクト活動における動機づけ ー モチベーションの高め方 ー	尾崎由佳(チャレンジセンター講師)	コーディネーター (8校舎31名)
2013年 2月27日	コーディネーター・ アドバイザー 意見交換会	●真のなかちやれを目指して ①開会にあたり ②事例報告 ライトパワープロジェクト コーディネーターとアドバイザーの連携 および役割分担について ③意見交換	①崔一英(チャレンジセンター次長) ②木村英樹(チャレンジセンター次長) 佐藤多嘉雄(チャレンジセンター推進室)  ③ファシリテーター: 崔一英(チャレンジセンター次長)	コーディネーター アドバイザー 教職員 (6校舎24名)

〈 〉…TV会議システム接続校舎および参加人数



# 2012年度のチャレンジセンターの活動

## 4/21 「科学技術チャレンジフェア」を開催

文部科学省が制定する科学技術週間に合わせて毎年実施しているイベントで、今年度はサイエンスコミュニケーターとライトパワープロジェクトが参加しました。今回は「科学喫茶スペシャル」と題し、5月21日(月)の朝に関東から九州にかけての広範囲に発現する金環日食をテーマに行い、近隣の小学生や住民、学生ら約40名が参加しました。

当日は総合教育センターの比田井昌英教授が、「金環日食はなんでおきるの?」をテーマに講演。日食の仕組みや安全な観測方法などを紹介しました。その後、理学部元教授の鈴木恒則氏によるピンホールカメラの工作教室を実施。参加者らはピンホールカメラの原理を学んだ後、学生スタッフのサポートを受けながら段ボールを使ってピンホールカメラを完成させました。イベント開催中には紙飛行機などの工作教室やソーラーカーの実物展示も行い、来場者の関心を集めていました。参加した小学生の保護者は、「このイベントに参加したことで、金環日食の仕組みや正しい観測方法を教えてもらってよかった」と話していました。



## 6/23 「第9回チャレンジセンターセミナー」を開催

チームとして力が発揮できるプロジェクトマネジメントを学ぶことを目的に、ライトパワープロジェクトが中心となって企画したもので、当日は宇宙航空研究開発機構(JAXA)研究領域リーダーの山西伸宏氏(情報・計算工学センター)が「宇宙開発におけるイノベーションの創出」というテーマで講演。テレビ会議システムで札幌、旭川、高輪の各校舎にも中継され、約200名の学生や教職員が聴講しました。JAXAで液体ロケットエンジンの数値解析や次期基幹ロケットH-3の研究開発に従事されている山西氏は、宇宙・航空開発事業の概略を紹介したほか、社会で求められているイノベーションの重要性について自らの実践例を交えて解説。「学生時代は試行錯誤しながら、自分のスキルやモチベーションを向上させる方法を見つけてください。失敗を恐れずにビジョンを持って常に努力する以外に、成功への道はありません」と学生を激励しました。セミナーの企画に携わった学生は「興味深い知識や経験を知る貴重な機会になりました。この講演を大きな糧にして、今後の活動に生かしていきたい」と感想を語っていました。



## 10/13 「2012年度プロジェクト中間報告会」を開催

当日は9つの校舎をテレビ会議システムで結び、全国で541名の学生が参加しました。報告に先立ち、本センターの大塚滋所長が「プロジェクト同士が学び合える貴重な機会を大切に、積極的に意見を出して情報を共有してほしい。この発表は、活動の評価を下す材料のひとつにもなります。皆さんの力のこもったプレゼンテーションを期待しています」と激励しました。続いて17のチャレンジプロジェクトの代表学生が、活動内容や今後の目標などを発表。「活動の幅を広げるために他のプロジェクトの催しにも積極的に参加し、連携イベントの呼びかけを行いました」「プロジェクトを周知するために学外にもポスターを掲示し、地域の方々も参加できる活動の提案をしています」など活動推進の工夫なども紹介され、熱心にメモを取る学生の姿も見られました。報告終了後、田中康夫副学長が登壇し、「内容の濃い発表で、時間を忘れて聞き入りました。テレビ会議システムにより、全国で活動する学生の声を聞けたことは、良い刺激になったのではないのでしょうか。サポートをしてくださる方々への感謝を忘れずに、今後も活躍を続けてほしい」と感想を述べました。



2013年

## 4/5 「第10回チャレンジセンターセミナー」を開催

当日は9つの校舎をテレビ会議システムで結び、全国で116名の学生らが参加しました。はじめに本センター崔一英教授が、「チャレンジセンターが開設以来、所長を務めてこられた大塚先生が、今年3月に所長を退くことになりました。本日のセミナーでは、7年間におよぶセンターとの歩みを振り返ってもらいつつ、集い力・挑み力・成し遂げ力とは何かを語ってもらいます。」と挨拶をしました。大塚所長は、「人を集わせる集い力を!~チャレンジセンター所長を7年間勤めて~」をテーマに講演。「集い力とは“集う力”ではなく、“人を集わせる力”です。チャレンジプロジェクトの認定条件である50人もの大所帯を束ねるのはとても難しいことです。仲間の中には、途中でサボる人、辞める人もいるとは思いますがそれを一方的に非難するのではなく、「一緒にやろう」と何度でも声をかけ、仲間になってもらうことを諦めない努力が必要です。その過程で得た経験を、将来の財産にしてほしい。『青年よ大志を抱け』という有名な言葉がありますが、私も皆さんに同じ言葉を贈ります。“でかちゅれ”を、これからぜひ実行してってください」と呼びかけました。



## 2/5 「2012年度プロジェクト最終報告会」を開催



今年度に採択された17件のプロジェクトが、1年間の活動成果や課題となった点、今後の展望などを発表する催しで、9つの校舎をテレビ会議システムで結んで行い、全国で541名の学生が参加しました。橋本巨副学長の挨拶の後、登壇した各プロジェクトの代表者が、パワーポイントを用いて制限時間内(質疑応答を含む10分間)での報告に臨みました。なお、最終報告会では例年、来賓を招いて講評を頂戴し、学生がその後の活動に生かせるようにしています。今回は、東海大学連合後援会会長代理の市川光昭氏、東海大学同窓会の中村宏顧問に加え、企業で人事や管理を担当している石井祐吾氏(株式会社アビスト※本学工学部卒業生)、園部憲和氏(株式会社大岩マシナリー)、橋本紳司氏(株式会社トープラ)の5名にご参加いただきました。報告会終了後には、学生のプレゼンテーションに対する講評をいただき、「プレゼンテーションの際には、服装やヘアスタイルといった身だしなみも評価の対象になります。今日の経験を、ぜひ就職活動にも生かしてください」「初めて参加し

ましたが、いずれのプロジェクトも非常に中身の濃い発表で驚きました。プロジェクト活動において、皆さんは自ら考え、行動していましたが、これは企業が求める人材像とも重なります。活動を通じてこれらの能力を磨いたことを、今後の自信にしてください」などの言葉が寄せられました。最後に、チャレンジセンターの大塚滋所長が、「昨年度よりもレベルの高い発表内容だったと思います。特に、活動の反省点から今後の課題を述べたプロジェクトが多かったことに感心しました。本日発表したことを、ぜひ来年度に生かしてください」と参加学生に語りかけました。

- 「グッドプレゼンテーション」賞 受賞プロジェクト
- ▽スポーツ社会貢献プロジェクト(湘南校舎)
- ▽3.11生活復興支援プロジェクト(湘南校舎)
- ▽阿蘇援農コミュニティプロジェクト(阿蘇校舎)

## 6/13 フォローアップ研修「メンバー意識を高める情報伝達・情報共有について」

講師：園田

《湘南校舎15号館4階第1会議室にて実施。テレビ会議システムで5校舎接続》

第3回プロジェクト協議会において、情報共有のメリット・デメリットをツール別に検証し、公開性・アクセシビリティ・情報量・特徴を基に、ケースによってどのツールを使用するのが適当なのかを考えました。

## 9/25 フォローアップ研修「プレゼンテーション講座」

講師：園田

《湘南校舎17号館2階研修室2にて実施。テレビ会議システムで5校舎接続》

中間報告会を目前にして、プロジェクト参加学生20名に対しプレゼンテーションのコツ・ポイントを説明。視覚パフォーマンスと聴覚パフォーマンスの観点から説得力を高める方策を学びました。

## 12/12 フォローアップ研修「次世代リーダーを育成するために」「自分のリーダーとしての経験を今後活かすために」

講師：堀本

《湘南校舎15号館4階第1会議室にて実施。テレビ会議システムで5校舎接続》

第8回プロジェクト協議会において、リーダーとして相手の自律をサポートすることやリーダーとしての経験を今後活かすための知識を学びました。

## 2/19～21 「リーダー研修会」

《湘南校舎15号館4階第1会議室にて実施》

キャンパスを越えたプロジェクト学生同士の交流およびプロジェクトリーダーの育成を通じて、プロジェクト活動を活性化することを目的に実施されました。札幌・高輪・湘南・熊本・阿蘇の5キャンパスの学生37名が一同に介し、2泊3日で行われました。

研修では堀本麻由子講師、尾崎由佳講師が講義を担当し、さまざまな観点からリーダーシップを学びました。参加した学生からは「様々なグループの幹部と意見交換や考え方の違いを知ることができ、リーダーシップや自分の団体について改めて考え直す良いきっかけになった」といった感想がありました。



### 研修プログラム

#### 1日目（堀本）

- ・アイスブレイク（自己紹介ワーク）
- 【講義】相手を理解する（コミュニケーション方法を考える）
- 【講義】チームマネジメントとリーダーシップ
- ・リーダーとしての課題のワークシート記入
- 【演習】グループで課題の話し合い

#### 2日目（尾崎）

- 【演習】ブレインストーミング
- 【講義・演習】ビジョンのあるプロジェクトをつくる
- ・湘南校舎見学
- 【講義・演習】EQリーダーシップとは
- ・ふりかえりとまとめ

#### 3日目（堀本）

- ・2日間のふり返し
- ・プロジェクトマネジメントの理解
- ・ワールドカフェ（理想のリーダー像とは）
- ・全体ふり返し
- ・修了式（修了証授与）

# 2012年度 チャレンジプロジェクト活動報告

ライトパワープロジェクト	13
3.11生活復興支援プロジェクト	17
東海大学学生ロケットプロジェクト (TSRP)	18
Tokai Formula Club	19
スポーツ社会貢献プロジェクト	20
サイエンスコミュニケーター	21
Beijo Me Liga	22
Tokai International Communication Club (TICC)	22
Music Art Project (MAP)	23
病院ボランティアプロジェクト	23
環境キャラバン隊	24
キャンパスストリートプロジェクト(C.A.P.)	25
Takanawa共育プロジェクト	25
先端技術コミュニティ ACOT	26
阿蘇援農コミュニティプロジェクト	26
あにまるれすきゅープロジェクト	27
福祉除雪プロジェクト	27

# ライトパワープロジェクト

<ものづくりにより最先端科学技術と環境を共に学ぶ>

湘南  
校舎

http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/lp/

ソーラーカー、電気自動車、人力飛行機の製作を通して社会に貢献できる人材を育成することを目標に、様々な大会に参加し、技術の向上を図りました。また、大学周辺地域の人々を対象としたイベント活動も積極的に実施しました。

プロジェクトリーダー	吉田宗弘	工学部	航空宇宙学科	3年
サブリーダー	鹿島隆寛	工学部	機械工学科	2年
	大島真	工学部	航空宇宙学科	2年
広報リーダー	保坂健太郎	情報理工学部	コンピューター応用工学科	3年
会計責任者	並木琢磨	工学部	動力機械工学科	3年
参加人数 114人				

9月18日～9月28日

## 世界最長の自動車レース「サソール・ソーラーチャレンジ・サウス・アフリカ2012」で優勝。世界大会5連覇を達成!

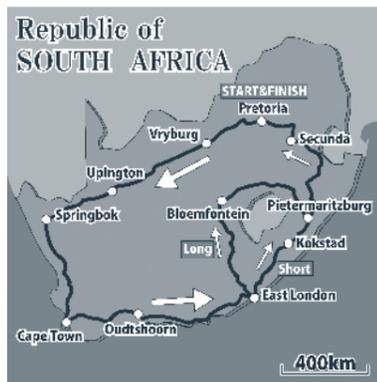


本大会は、国際自動車連盟(FIA)公認の代替燃料車による自動車レースとして2008年から隔年で開催されており、今大会で3回目を迎えました。

南アフリカ共和国の首都・プレトリアをスタートし、ケープタウンからブルームフォンテインを経由して再びプレトリアに戻るという、同国をほぼ一周する4,632kmの世界最長コースが設定され、標高差約2,000mのアップダウンや急カーブが出現する大変過酷なものでした。大会には、日本、インド、南アフリカから14チームが参戦。本プロジェクトはフィニッシュ地点プレトリアに、走行時間71時間13分、2位に合計18時間42分の大差をつけたトップで到着し、優勝および南アフリカでの大会3連覇を達成。2008年の南アフリカ大会から数えて、オーストラリア大会と合わせて世界大会5連覇を達成しました。



- 開催日程(日本時間)  
2012年9月18日(火)～28日(金)
- 会場  
南アフリカ共和国 プレトリア～ケープタウン～プレトリア(4,632km)
- 主催  
Advanced Energy Foundation (Section21)ほか
- 大会スケジュール  
9月14日(金)～17日(月)公式車検・予選  
9月18日(火)プレトリアをスタート  
9月22日(土)レース休止日  
(ケープタウンにて車両展示)  
9月28日(金)プレトリアにゴール



### 10/5 「優勝報告会」を開催

■東海大学校友会館(東京都・霞ヶ関)

来賓として開催国である南アフリカ共和国から駐日特命全権大使モハウ N.ベコ閣下、一書記官のトーマス・クロニエ氏にご臨席いただいたほか、新聞や雑誌など約20社の報道関係者が参加。パナソニック株式会社の西貝宏伸所長、本学の高野二郎学長、大塚滋所長、チーム監督を務める木村英樹教授、学生代表の鈴木一矢さんが登壇。レースを戦った学生メンバー19名のうち、7名が参加しました。木村教授は勝因について、「全てが高い次元で揃っていることが最大の強みだった」と解説しました。

## ▶大会レポート 優勝までの道のり

### 9月16・17日 車検をクリア・公式予選で総合1位を獲得。

車検は2日間にわたって行われ、初日は車体の長さ、幅、重さなどの計測といった静的審査、2日目はスワートコップ・サーキットに移動して制動試験等の動的審査が行われ、無事に車検を通過。最後に予選としてタイムトライアルが実施され、1分59秒のタイムで総合1位を獲得。本戦1日目はポールポジションからのスタートとなりました。



### 9月18日 朝8時から2分間隔で、ソーラーカーがスタート。

レース初日のドライバーは南アフリカ大会2回目となる伊藤樹さん。リヒテンバーグ・ランドバウ博物館までの約270kmを走行しました。後半は遠藤直樹さんがハンドルを握り、降雨のためエネルギーをセーブして約75km/hで走行するものの、フライバーグ展示場までの約220kmを2時間30分で走り切りました。



### 9月19日 地元でも注目の、女性ドライバーを投入。

前半のドライバーは坂井達哉さん。スタート直後に道を間違えるというトラブルがありました。大きな遅れにはならず、1位のポジションを保ったままコースへ戻る事ができました。後半は、女性ドライバーとして大会前から地元メディアなどにも注目されていた山田萌子さんに交代。途中無線トラブルもありましたが、順調に走行できました。



### 9月20日 前日より安定した走りでもフィニッシュ。

スタート直後は市内を走行しましたが、交通量も少なく楽に町を抜け出すことができました。レース前半では道路工事が1箇所のみで、発電量も豊富なことから、スムーズに走行できました。後半は道路工事が3箇所あり、風も少しあったものの問題なく走り切り、13時には本日のフィニッシュ地点であるスプリングボックに到着しました。



### 9月21日 悪天候の中540kmを無事走破。

朝から曇り空で発電量が少なかったため平均速度を80～85km/hに落として走行。後半は雨風ともに強くなり、太陽光パネルによる発電がほとんど得られなくなるという厳しい状況でしたが、上り坂手前の下り坂では、勢いよく上げるために100km/hに速度を上げるといった低消費電力での走行によって、悪天候の中を無事に走り抜きました。



### 9月22日 オフ・デーを利用して、展示・修理・整備。

オフ・デーであることからレースは行われず、ケープタウン市内のショッピング・モールであるキャナル・ウォークでソーラーカーの展示を行いました。午前中は展示の合間に車体の修理・整備を行いました。午後になると雨が降ってきたため中止となり、学生達は翌日から再開されるレースに向けて、買い物などでリフレッシュしました。



### 9月23日 24日と25日を見越して、エネルギーを温存。

第2ステージがスタート。雨天でしたが、浸水防止や曇り止めなどの雨対策をしていたためスムーズに走行できました。途中で太陽が出てくると、太陽光エネルギーを集めるため速度を65km/hに落とし、24日が658kmと最長距離の上、天候が良くないと予報されていることから、終盤は50km/hまで減速。バッテリーへ充電しながら走行しました。



### 9月24日 曇り空の下、競技時間内に658kmを走破。

早朝から厚い雲に覆われ、悪天候が予想されたことから、低速で高効率のモーターに交換。途中、小雨による水しぶきで視界が悪くなるなど、コースの状況は大変厳しいものでした。25日も距離が長く、約2000mの高さを登るため、バッテリー残量を半分以上残すように走行。17時38分、フィニッシュ地点に到着しました。



### 9月25日 トルクの高い登坂用モーターで、上り坂対策。

前半は1800mの高さまで登り、バッテリーを温存する走行をしていましたが、快晴でバッテリー残量に余裕が出てきたので75km/hまで速度を上げました。後半は道路工事や迂回による低速走行のため、上昇したセル電圧が4.1Vの満充電状態になり、消費エネルギーを増やすために速度を90km/hまで上げ、550km無事に完走できました。



### 9月26日 快晴で走りやすいコース、バッテリーは満充電状態。

登坂用モーターからバランス型のものへ交換。道路工事で2回ほど停止し、バッテリーが満充電状態になったため、100km/h走行に切り替えました。後半は太陽光発電を止めて走行。途中で不審車両として警察に止められるも、大会の許可証を見せてすぐにレースに復帰。無事にフィニッシュ地点のミッドランズ・モールに到着しました。



### 9月27日 モータートラブルも、チームワークで短時間に交換。

序盤は、ガードレールが無い狭い道に崩れた石が落ちていたり、対面通行ができない一橋など、大変厳しい山岳コースでした。途中、モーター巻き線の被覆が熱でダメージを受けましたが、高いチームワークを発揮し23分で交換。その後も牛やヤギが横断するというハプニングがあったものの、17時にフィニッシュ地点に到着しました。



### 9月28日 総走行距離4,632kmを、無事トップで完走。

最終日の朝は、空を雲が覆い、予報は雨。一般道では工事による砂利道や通行止めがあったものの大きなロスもなく走り抜け、高速道路へ。序盤は悪天候に備えて75km/hで走行していましたが、予報に反して太陽が出始め、バッテリー残量に余裕ができたため速度100km/hで走行。11時03分、無事完走し、優勝を果たしました。



#### 4/8 新東名高速道路でソーラーカーのテスト走行を実施

■ 新東名高速道路 (NEOPASA清水～新富士インターチェンジ)

「Tokai Challenger」を使用して、新東名高速道路の約17km区間を利用した走行テストを実施しました。この走行テストは、新東名の御殿場ジャンクション～三ヶ日ジャンクション間の162kmが4月14日に開通する直前に行ったもので、高速道路を利用したソーラーカーの走行テストとしては日本国内では初の試みです。当日は、コースの下見と車体整備の後、走行テストを開始。時速60km、80km、100kmの3段階で速度を上げ、ソーラーカーの消費電力を計測することで評価を行いました。



#### 5/4・5 「2012ワールド・エコノ・ムーブ」に出場

■ 大湯村ソーラースポーツライン (秋田県)

本大会は、「ワールド・エコノ・ムーブ組織委員会」主催により開催され、鉛蓄電池部門と燃料電池部門が設けられています。本プロジェクトは、2012年度に新たに開発された燃料電池制御システムを搭載する「ファラデーマジック2」で、燃料電池部門に出場しました。同部門においては2008年から四連覇を達成しており、五連覇を目指しての出走でしたが、競技開始から30分以上スタートが遅れるトラブルが発生。走行中も燃料電池システムの不調などが原因で速度が上がらずピットインを繰り返し、34.33kmの記録で2位となりました。



#### 7/18 「エコカー教室」を実施

■ 湘南校舎

秦野市市立大根小学校の4年生96人を対象に、ソーラーカーと電気自動車を使った「エコカー教室」を実施しました。当日はソーラーカーと電気自動車の実物見学を行った後、実際にソーラーカー「Tokai Challenger」と電気自動車「Car Graphic号」が走るのを見てもらうデモ走行を実施しました。その後、アドバイザーの木村英樹教授とメンバーによる「エコカーについて」の講義を行いました。デモ走行を見学した子どもたちは「音が静かで凄い」「車の中は暑そう」と興味津々で、時速が100km出ることなどを聞くと「速い」と歓声を上げていました。



#### 6/9・10 「人力飛行機のテストフライト」を実施

6/10~12 ■ 富士川滑空場 (静岡県)

人力飛行機チームは、2回のテスト飛行を実施しました。1回目は、チーム間のコミュニケーション不足により機体の組立てに4時間半以上もかかったことを反省し、2回目は、グループごとに団結と協力を意識して取組めたので1時間半以内に完成し、大幅に短縮できました。その分、プロペラの推力調整などに費やせ、定常飛行には至らなかったもののジャンプ飛行の成功につながりました。今後は、2013年に開催される読売テレビ放送主催「鳥人間コンテスト」出場を目標に活動を行います。



#### 8/5 「ものづくり教室」を開催

■ 湘南校舎

秦野市立大根小学校と平塚市立みずほ小学校の児童を対象に開催し、当日は両校合わせて29名の児童が参加しました。はじめに人力飛行機班による人力飛行機についての説明と、パイロットの体験談話を行い、実際に使われているプロペラに触れてもらいました。その後、市販のグライダー工作キットを用いて飛行機を完成させ、グラウンドに移動して飛ばし、飛行距離を競い合うゲームを行いました。参加した小学生に対するアンケートでは「参加してよかった」という回答が88%、「また参加したい」という回答が95%寄せられました。



#### 8/13 気仙沼市と大船渡市で祭りに参加

8/16 ■ 気仙沼私立大島小学校 (宮城県気仙沼市) / 岩手県大船渡市

人と人との交流を通して復興を支援するとともに、太陽光や省エネルギー技術への興味を高めることを目的に、サウジアラビア大使館や日野自動車などの協力を得て実施したもので、13日は、「大島復興花火大会」の昼の部に参加。「Tokai Challenger」と「ファラデーマジック2」や、移動に使用したハイブリッドトラック、エコバスなどを展示したほか、サウジアラビアの文化体験ブースを設置。16日には、大船渡市の「三陸港まつり」で同様のブースを設置。2011年5月に建設した同市内の「泊地区公民館」を訪れ、ソーラーパネルが問題なく稼働している事を確認しました。



#### 8/21 駐日南アフリカ大使がソーラーカーチームを激励

■ 湘南校舎

駐日南アフリカ共和国特命全権大使のモハウ・ペコ閣下とトマス・クロニエー等書記官がハワイ東海インターナショナルカレッジ学長 吉川直人教授と大塚滋所長、木村英樹教授、福田紘大講師らと懇談。その後「ものづくり館」にて2010年大会で使用したマシンを見学しました。ペコ閣下は、「持続可能な社会を目指すこの世界にとって、これまでとは異なる考え方に基づく新しい技術の開発は極めて重要になっています。こうした時代にあって、仲間と集いながら新しいことに挑んで成し遂げるといった教育活動は素晴らしい取り組みだと思います。」と激励の言葉を述べられました。



#### 11/17 ~18 「エコソーラーストリートin古町」に出展

■ 古町 (新潟県)

地球環境問題への貢献と新潟の古町活性化に貢献するため、産学官の連携を図ることを目的として、本学新潟校友会主催により開催されたイベントにて、「Tokai Challenger」の展示とデモ走行会、木村英樹教授による講演が行われました。木村英樹教授は講演で「ソーラーカーレースに参戦する目的」をテーマに、日本が得意とするものづくりの技術力を世界にアピールすること、CO2排出ゼロ&燃費無限大という究極の環境性能を持つ「ソーラーカー」を高性能化することで、実用化に近づけたいという想いを伝えました。



#### 11/29 「ソーラーカーチーム世界大会5連覇記念走行会」を開催

■ 湘南校舎

今回の催しは、一般の学生にも感動を共有してもらおうと山下泰裕副学長のもとで企画されました。当日は、会場の噴水前広場に歴代の優勝車両である2009年型と2011年型の2台の「Tokai Challenger」がそろい踏み。まずは学生リーダーの鈴木一矢さんが両マシンの概要やレースの様子を紹介し、謝辞を述べました。続いて、噴水前から南門前の時計台までの中央通りをコースに走行を開始。昼休み中の走行会実施ということもあり沿道では約2700名の学生らが見学。ライブ映像は校舎内の食堂にも配信されました。



#### 12/13 「ソーラーアワード2012」を受賞

■ 東京ビッグサイト (江東区)

2012年に突出した成果を残した自然エネルギー関連トレンド、人物、事業モデルなどを表彰するこの賞は、「自然エネルギーの自給国家・ニッポンへ」をスローガンに、雑誌「SOLAR JOURNAL」が今年度から立ち上げたものです。式には木村英樹教授が出席。ライフワーク部門を受賞したC.W.ニコル氏、自治体部門を受賞した神奈川県知事の黒岩祐治氏らとともに、賞状を受け取りました。木村教授は「第1回という記念すべきソーラーアワード表彰において、このような荣誉ある賞をいただけてとても光栄です」と受賞の喜びを語っていました。



# 3.11生活復興支援プロジェクト

<継続可能な復興支援のあり方を学ぶ>

http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/3.11lcp/

湘南  
校舎

# 東海大学学生ロケットプロジェクト(TSRP)

<ロケットの製作、打ち上げ、計画の立案、交渉、実行を通じてものづくり、およびプロジェクトマネジメントについて学ぶ>

湘南  
校舎

2011年3月11日に起こった東日本大震災で被災した地域に対して、「被災地の環境をもとに戻す」という従来の災害復旧支援ではなく、新たな発想で生活環境を考えた「持続可能な復興支援」を目標に活動を進める。

プロジェクトリーダー	佐藤由紀	理学部	化学科	2年
サブリーダー	石川雄斗	工学部	建築学科	4年
	佐藤裕司	政治経済学部	政治学科	2年
	中島聖斗	文学部	広報メディア学科	3年
広報リーダー	井坂美貴	工学部	建築学科	4年
会計責任者	萩原啓史	工学部	建築学科	4年

参加人数 57人

プロジェクトリーダー	小黒純平	工学部	航空宇宙学科	4年
サブリーダー	高柳健太郎	工学部	航空宇宙学科	4年
広報リーダー	小川聖弥	工学部	航空宇宙学科	2年
会計責任者	中元啓太	工学部	航空宇宙学科	4年

参加人数 52人

## 5/12 ~19 ミニどんぐりハウス作りを実施

本企画は、今年度新しく入ったメンバーにウッドブロック構法の理解を促すことと、同構法を用いた復興支援としてバス停や物置、ゴミセンター等の提案を目的として実施されました。期間中は約22名のプロジェクトメンバーが参加し、ウッドブロックを作成する部材の切り出しから作業を開始。12日に建設を行い、13~18日まで展示を行いました。



## 8/9 「電子工作教室」を実施

越喜来小学校に通う小学生およびその保護者を対象に、電子工作教室を実施しました。越喜来小学校は2012年度に大船渡市三陸町にある甫嶺小学校、崎浜小学校と合併しており、新しい仲間たちとより良く親交が深められることも踏まえています。当日は児童20人が集まり、浅川毅准教授を中心に、発光ダイオードライトとマイクロコンピュータを使った、電球の色が変わるキットを作成しました。



## 11/25 東北物産販売ボランティアを実施

「大門市」において、東北物産販売ボランティアを行いました。このイベントは地域の活性化と朝市や県内各地の特産品の魅力を伝えることを目的としたものです。本プロジェクトは東日本大震災復興支援活動の一環として、被災地から避難してきた方が運営している、神奈川県藤沢市にある岩手、宮城、福島観光物産プラザから仕入れた物産を販売。全て完売することができました。



## 12/22 シンポジウム「ふくしまへの架け橋」を開催

福島大学災害復興研究所から佐藤達則氏、IIE代表谷津拓郎氏の両名をお招きし、「～現在の会津におけるコミュニティ問題とは～」をテーマにパネルディスカッションを実施。福島県の会津地区が抱えるコミュニティ問題についてご講演いただきました。ワークショップでは「～会津のコミュニティ問題について学生ができる活動とは何か～」をテーマに、学生ができる支援策を出し合いました。



## 1/18 ~19 「名取市図書館 どんぐり・アンみんなの図書室」の建設に協力

今回の支援活動では、建物の基本構想と企画の立案、建物のCG制作などを担いました。18日のオープニングセレモニーには、名取市の佐々木一十郎市長や市関係者、マッケンジー・クラグストン駐日カナダ大使、大塚所長、建築全般をプロデュースした杉本教授ら多数が出席。19日に「こども図書室」で開催されたオープン記念イベントでは、学生たちが考案したしおり作りを実施しました。



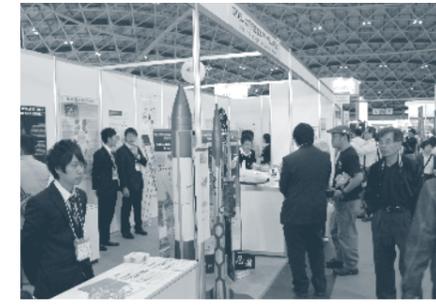
## 7/14 「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」に出展

進路選択を間近に控えた中学生や高校生を対象に、理工系分野への進学を考えるきっかけにしてもらうことを目的として開催したもので、本プロジェクトでは、「ロケットを解剖してみよう【身近な物理現象】」をテーマとして、Wiiリモコンを利用したロケット内の加速度計の体験やプロジェクターによる動画放映と解説のほか、2010年3月に北海道大樹町で打ち上げたハイブリッドロケットとハイブリッドロケットエンジンの展示を実施しました。



## 10/9~14 「2012年国際航空宇宙展」に出展

本イベントはアジア最大の航空宇宙機器の製造拠点である名古屋地区で開催され、22カ国から529社の関連企業・団体が参加しました。会場には日本国内のみならず海外からも多くの来場者が訪れ、本プロジェクトは活動紹介ほか、質問対応などを行いました。参加したメンバーらは出展企業の方々とも交流を行い、技術的な助言をもらうなど、今後の開発に有益な情報を得ることができたと話していました。



## 8/17~23 「第8回能代宇宙イベント」にて打ち上げを実施

本イベントは、日本最大規模の学生・社会人によるロケット打上及び自律ロボット制御のアマチュア大会です。8月19日の一般公開日には、活動紹介としてパンフレットの配布と、2011年の冬季に打ち上げた27号機やエンジン、搭載機器を展示、24日にハイブリッドロケットH-28号機(全長約1.8m・胴体直径154mm)の打ち上げ実験を行いました。打ち上げは無事成功を収め、ロケットの到達高度は約600mを記録しました。

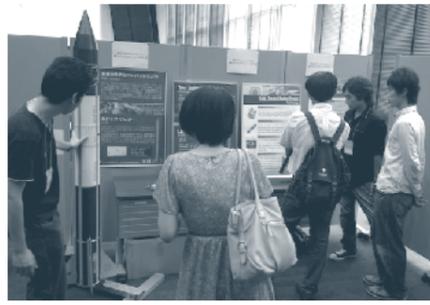


## 3/7~15 「第11期ハイブリッドロケットプロジェクト」で打ち上げを実施

本団体では例年、春の長期休暇を利用して北海道大樹町にてハイブリッドロケットの打ち上げ実験を行っています。本年度の実験では、低学年生の教育と、将来の高高度化を実施して行く上で必要となる技術の実証を目的としています。打ち上げ日程は3月の10日と12日、打ち上げを行う機体はH-29号機(全長1.9 m / 胴体直径120 mm)とH-30号機(全長1.8 m / 胴体直径154 mm)、予想到達高度は、H-29号機はおよそ 460 m、H-30号機はおよそ850 mです。本実験の成功に向けて、打ち上げ実験が決定する半年前から製作日程表を作成し、作業状況の確認を行うため進捗会議を毎週開きます。また、打ち上げ直前の2月には機体の統合試験やリハーサルを何度も行い、環境の違う現地でもスムーズに作業が行えるよう工夫しています。今回の実験を成功させて、来年度の夏にはTSRPの最高到達高度記録1.3 kmを超えるロケット打ち上げに挑みます。

## 9/15~16 宇宙開発フォーラムに参加

本イベントは、学生団体「宇宙開発フォーラム実行委員会」によって「文科系と理科系の融合」をキーワードに、宇宙開発に興味を持っている学生が宇宙開発に関わっていく契機を提供することを目的として開催。本プロジェクトはポスターセッションにおいて、活動の内容とハイブリッドロケットについての解説を行いました。ブースには数多くの方が見学に訪れ、機体の構造や計測機器などの説明に熱心に耳を傾けていました。



※写真は2011年度のもので

第10回全日本学生フォーミュラ大会優勝を目指し、アクセラレーションやデザイン審査など8項目の審査に向け、マシン作成だけでなくプレゼンテーションなどにも力を入れた活動を行いました。

プロジェクトリーダー	岡田力哉	工学部	動力機械工学科	3年
サブリーダー	古内龍之介	工学部	動力機械工学科	3年
	小谷野翔大	理学部	物理学科	3年
会計責任者	渡辺圭介	工学部	動力機械工学科	3年

参加人数 59人

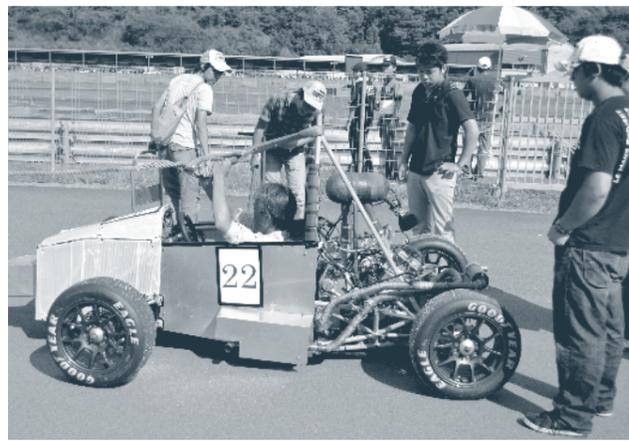
プロジェクトリーダー	松田悠希	体育学部	体育・スポーツレジャーマネジメント学科	3年
サブリーダー	田代朋世	体育学部	体育・スポーツレジャーマネジメント学科	3年
	高橋幸大	体育学部	体育・スポーツレジャーマネジメント学科	2年
広報リーダー	小川直美	体育学部	体育・スポーツレジャーマネジメント学科	2年
会計責任者	酒井悠紀	体育学部	体育・スポーツレジャーマネジメント学科	3年

参加人数 70人

## 8/8・10/22 「富士走行会」・「茂木合同走行会」に参加

■ 富士スピードウェイ(静岡県)/ツインリンクもてぎ(栃木県)

両イベントは、「第10回全日本学生フォーミュラ大会」へ向けての調整を目的としたもので、富士走行会には関西・中部・関東地区から同大会に参加を予定しているチームが集結しました。会場には、大会を想定したコースを設置。本プロジェクトは大会出場用の新作マシン「TF2012」で参加しました。車検では本大会までに修正しなければならない箇所が数点見受けられたものの、試走は無事に走行することができました。また、走行中車両に不具合が発生したものの、メンバーらは慣れた様子で修正を完了させることができ、本番に向けての問題処理能力についても自信をつけることができました。茂木合同走行会は、全日本学生フォーミュラ大会直前の最後の走行会となり、30校あまりの大学が参加。実施内容は車検、周回走行、アクセラレーションの3つで、本プロジェクトは走行時の信頼性の向上を目標に臨み、走行途中ではステアリングにアクシデントがありましたが、ピットで迅速に対応し、あらためて完成度の高さを実感していました。



## 9/3 「第10回 全日本学生フォーミュラ大会」に出場

■ エコパ(小笠山総合運動公園・静岡県)

本大会は、自動車産業の発展に寄与するため、学生の自主的なものづくりの総合能力を養成し、自動車産業を担う人材育成を目的とした公益活動として2003年にスタートしたもので、車の走行性能および車両コンセプトや設計、コスト審査などのつくりの総合力を競います。今年度は日本国内外から82チームのエントリーがあり、その中から書類審査を通過した76チームが本戦へ出場しました。本戦では車検のほか、コスト・デザイン(設計)・プレゼンテーションからなる静的審査と、アクセラレーション(加速性能を競う)やスキッドパッド(8の字コースのコーナリング性能を競う)などの動的審査が行われ、本プロジェクトは総合18位の成績を収めました。参加したプロジェクトメンバーは「近年では参加車両の成熟が進み、途中棄権する車両なども減ってきました。レベルもかなり上がっているので、いかに構想をしっかり練れるかがポイントとなってきています。これからもプロジェクトとして全体が協力し、次の大会に臨みたいと思います」と反省を述べていました。



## 11/25 「第48回SHCC大磯ミーティング」に参加

■ 大磯ロングビーチ(神奈川県大磯町)

本イベントは、湘南エリアを中心に活動している古い車のクラブ「湘南ヒストリックカークラブ」主催によるもので、1969年までの生産か、大会主催者に承認された車両のみが参加できる。ジムカーナ形式(制御用のコーンでコースを作り、2回の走行のうち速いほうのタイムで順位を競う)の競技大会で、本プロジェクトは、第33回より特別枠として参加しています。イベントにはプロジェクトメンバー36名が参加し、プロジェクトで製作したマシン「TF2012」展示および全日本学生フォーミュラ大会での成果についての解説、デモ走行を実施したほか、イベントスタッフとして運営補助を行いました。見学者の中には、全日本学生フォーミュラ大会を観戦した方もおり、「大会時よりも車体の足回り関係がうまくセッティングされている」といったご意見をいただきました。また、例年の車体に比べて車高が高いことや、加速力があるという感想も聞かれ、毎年注目して下さっている様子が伺えました。



## 通年 各地にて「スポーツイベント」を実施

- 5/5 「こどもまつり」(秦野市中央運動公園陸上競技場)
- 8/6 「ニュースポーツ教室」(平塚市みずほ小学校)
- 10/27 「みなと子供の家」(平塚市)
- 11/3 「秦野市民まつり」(秦野市中央運動公園)
- 11/3 「大野子どもの家」(平塚市)
- 11/17 Youth age a go-g! festival ~We Love ISEHARA~ (伊勢原市)



## 9/2 「高齢者向けステップアップ卓球教室」を実施

■ 平塚市西部福祉会館

本企画は平塚市内在住の60歳以上の卓球経験者を対象としたもので、27人の方が参加。基礎練習と応用練習のデモンストレーション、ポイントの解説、各ペアでの実践等を行い、個々にアドバイスをしてまわりました。その後メンバーもゲームに参加。交流しながら多くの経験が得られるように進行了ました。メンバーは、「もっとレベルの高い指導をしてほしいという意見もあり、より充実した教室が開催できるよう改善していきたい」と述べていました。



## 5/12 「でかスポ杯」を実施

■ 湘南校舎 準硬式野球場

本イベントは、プロジェクトの枠組みを越えた交流を深めるために開催されたもので、ライトパワープロジェクト39名、キャンパスストリートプロジェクト4名、環境キャラバン隊16名、TICC2名、病院ボランティアプロジェクト3名、Beijo Me Liga7名、学生運営スタッフ2名、スポーツ社会貢献プロジェクト14名が参加。誕生日の順番でチームを作り、大縄跳び、パネルクイズ、障害物競走(ぐるぐるバット→風船運び→二人三脚等)を行いました。



## 12/2 「レッドボールフェスタ2012 ~地域がエコでつながるプロジェクト~」を開催

■ 湘南校舎 テニスコート

レッドボールとは、ボール・ラケット・コートサイズを改良した、誰でも楽しめる新しい形のテニスです。参加者は大人38人と12歳以下の子ども48人。主に親子でグループを組み、ウォームアップを行ったあと、講師に習ってラリーを練習し、その後メンバーに挑戦しました。ゲームのほかにも、地球環境とスポーツの関連について学んでもらうため、アルミ缶を参加費がわりとしたり、スポーツと環境についてのパンフレットの配布などを行いました。



## 7/1 「第3回ゼロから始めるスポーツ体験教室」を開催

■ 湘南校舎 ラグビー場

本企画は、普段触れる機会の少ない種目を通じてスポーツに対する視野を広げてもらうことを目的として開催。30歳以上を対象とした「ノルディックウォーキング教室」では9名が参加し、学内を実際にウォーキング。「フィールドホッケー・ブラインドサッカー教室」には小学校3~6年生の児童27名が参加。「フィールドホッケー」では約5分間のミニゲームを行ないましたが、「ブラインドサッカー」は雨のため、ボールを使っただけの体験は中止となりました。



## 2013年 1/12・13 「第5回東海スポーツDAY」を実施

■ 湘南校舎

12日には本学硬式野球部の協力による「野球教室」を行い、近隣の野球チームに所属している小学4年から6年までの児童106人が参加。13日にはブラインドサッカーチームbuen cambio yokohamaの協力による「ブラインドサッカー・ニュースポーツ教室」を行い、近隣の小学1年から6年生25人とその保護者21人が参加しました。両日も最初に東海大学を知ってもらうことを目的としたゲーム「フォトラリー」を参加者全員で行いました。



# サイエンスコミュニケーター

<科学を伝え、科学と人をつなぎ、その輪を広める能力を培う>



# Beijo Me Liga

<異文化交流を通じて、企画力、実行力を学ぶ>



子どもから大人まで多くの方が科学に興味を持ってもらえるよう自己の専門性を高め、その成果として、「金環祭」、「科学教室」をはじめとする科学イベントを実施しました。

プロジェクトリーダー サブリーダー 広報リーダー 会計責任者  
平田得大 教育学部 人間環境学科 2年  
濱祐太郎 工学部 生命化学科 2年  
若林佳祐 工学部 航空宇宙学科 3年  
宮田隼平 工学部 原子力工学科 2年  
辻光世 工学部 原子力工学科 2年

参加人数 46人

外国籍の子どもたちに対して、日本人と触れ合うことでしかできない体験や日本語修得に意欲的になってもらえるような交流・支援、「マルチカルチャーキャンプ」の実施、定期的な日本のブラジル人学校訪問を行いました。

プロジェクトリーダー サブリーダー 広報リーダー 会計責任者  
今井和華子 教育学部 国際学科 3年  
Vo Hoang Minh 教育学部 国際学科 3年  
宇野野真理夫 教育学部 国際学科 2年  
浅野目恵里 教育学部 国際学科 3年  
木庭聡美 教育学部 国際学科 2年

参加人数 56人

**5/12**  
「日食科学教室」を開催  
■ 湘南校舎

近隣の小学生や保護者、約250名が参加したほか、テレビ会議システムで全国の付属高校などにも配信されました。第1部では、本学教育開発研究所の滝川洋二所長が「太陽実験教室～太陽の不思議を実験で学ぼう～」と題して講義。第2部では、理学部物理学科の榎田淳子准教授が、「日食とはどんな現象なのか?～観察の注意点、安全な観察法～」と題して講演。講演後には日食メガネや観測用ピンホールカメラの工作を行いました。



**5/21**  
「金環祭 ～明け方の天体ショー～」を開催  
■ 湘南校舎

「東海大学金環日食観測プロジェクト2012」が各地で開催した観測会の一環として行ったもので、市民ら約850名が参加。開始当初は雨が降っていたため、「日食観測プロジェクト」の関連企画として本学広報メディア学科の学生と協同で制作した特別番組の視聴会を、8号館の教室で実施しました。校舎周辺が金環帯に入った直後に雨が止み、雲間から太陽に月がかかった様子が観測できたことから、8号館前で日食の観測を行いました。



**8/6**  
科学実験教室 「エネルギーについて考えよう」を実施  
■ 湘南校舎

理工系に興味のある中部2・3年生と高校1年生55名が参加。太陽光発電と風力発電、熱電発電を紹介するブースを用意しました。風力発電のブースでは風車をうちわであおいで作ったエネルギーを使って、小型の車を動かす実験に挑戦。太陽光発電のブースでは、2枚の太陽電池パネルを直列や並列につないだ際の、発電量の変化などを学習。熱電発電のブースでは、温度差によって発電するペルチェ素子を使った実験を行いました。



**4/8**  
「イースターイベント」を実施  
■ 青年の家跡地自然公園(神奈川県厚木市)

本企画は、日本に滞在し、母国ブラジルでの習慣になかなか触れ合えない県内唯一の日系ブラジル人学校「エスコラ・アクアレラ・ブラジル」の幼稚園生20名を対象に、キリスト教の行事として広く親しまれているイースターのイベントを通じ、地域の日本人と共に文化交流を行うことを目的として開催されました。メンバーはこの日のために約120個の「イースターエッグ」を手作りで準備。また、参加者全員に手作りの「イースターうさぎ」の耳も配られました。



**8/8~10**  
異文化交流イベント「マルチカルチャーキャンプ」を開催  
■ 湘南校舎

この催しは、ブラジル人学校の生徒やその保護者、本学の学生などを対象として、毎年開催しているもので、キャンプには約150名が参加しました。今回は東海大学学生ロケットプロジェクトと協力し、ペットボトルロケットにも挑戦。手作りうどんや肝試し、大運動会、南米発祥の「カポエイラ」や、「BIODANZA (ビオダンサ)」というダンス、ブラジル風盆踊り「MATSURI-DANCE」なども行われ、互いの国への理解を深めました。



**8/16**  
「サイエンスリンク ―キミとカガクをつなぐ夏―」に出展  
■ 日本科学未来館

本イベントは、9つの学生団体が小学生を対象としたサイエンスショーや工作などの科学イベントコーナーを提供。本プロジェクトは3つのラボを設け、それぞれ実験を行いました。「SHIBATORA」では、擬似雷と擬似雲を発生させる装置を使い、天気メカニズムを説明。「ケミカルガイザー」では、圧縮発火実験器を用いて二酸化炭素を液体化。「珊瑚's BAR」では、「吸水性ポリマー」の性質と、どんな事に使われているのかを解説しました。



**11/24**  
「世界一行きたい科学広場 in 浦安2012」に出展  
■ 本学付属浦安高等学校・中部 松前記念体育館

サイエンスショーや科学実験を通じて子どもたちの育成に寄与することを目的として今年から開催されたイベントで、本プロジェクトはエネルギーの中でも「電気・発電」に注目し、「太陽光発電」「風力発電」「日本三大発電」とペルチェ素子を使った「熱電発電」の計4つの展示を行いました。会場には大勢の方々を訪れ、子どもたちからは「太陽光パネルでNゲージが走れるほどの発電ができる」とは思わなかった」といった感想が聞かれました。



**12/11**  
「第4回科学喫茶」を実施  
■ 湘南校舎コムスクエア

今回の企画は、ネットワークサービスを安全に利用するために役立ててもらうことを目的として、情報セキュリティやコンピューターウイルスについて取りあげました。当日は、学内外より23人が参加。本学情報通信学部通信ネットワーク工学科の山本宙准教授によるセキュリティについての講義が行なわれました。その後、参加者がいくつかのグループに分かれ、討論会を行いました。



# Tokai International Communication Club (TICC) 湘南校舎

<留学生と外国人児童生徒が生活しやすい学校づくりを目指して学習支援等の活動を行う>

留学生との交流や外国人児童生徒の学習支援に必要な異文化コミュニケーションスキルを身に付け、日本語・日本文化教授のための基礎知識・スキル、在日外国人についての諸問題を学びました。

プロジェクトリーダー サブリーダー 広報リーダー 会計責任者  
渡邊貴裕 工学部 原子力工学科 2年  
加藤摩周 文学部 広報メディア学科 2年  
古田加菜 教育学部 国際学科 3年  
村上万理奈 文学部 歴史学科 4年

参加人数 63人

**6/16**  
留学生と「スポーツ交流会」を実施  
■ 湘南校舎

本企画はスポーツ・レクリエーションを通して留学生との接点を持ち、相互理解を深め、学内における国際交流をより身近に感じてもらうことを目的として開催。当日はスポーツ社会貢献プロジェクト6名を含む日本人学生15名、学内留学生10名と、メンバー42名が参加しました。



**9/8**  
翰林日本語学院と「交流会」を実施  
■ 湘南校舎

本企画は、留学生との交流を通して、日本の生活習慣や文化などを知ってもらうことを目的としたもので、翰林日本語学院学生20名と本プロジェクト14名が参加。日本人の習慣やマナーを楽しみながら学べるオリジナルカルタで遊んだり、おにぎり作りなどで交流を深めました。



**2013年 1/15**  
「日中韓Friendship Program」を開催  
■ 湘南校舎

本企画は、様々な国家間問題を抱える日中韓について、国際理解に造詣の深いエジプト出身の本学国際教育センター講師アブドラ・アルモームン氏をお迎えし、「私たちができる友好化」～世界から見る日中韓～と題して第三者の視点から友好化へのヒントをお話いただきました。



# Music Art Project (MAP)

<音の感じ方を学びたい>

本学松前記念館講堂、平塚市民センターホールなどで演奏会を実施するとともに、メンバー個人の音楽感性の向上に努めました。また、2012年度は、創作オペラの公演を実施しました。

プロジェクトリーダー サブリーダー  
近藤有里 教養学部 芸術学科 3年  
松ヶ野綾和子 教養学部 芸術学科 4年  
伊東広大 教養学部 芸術学科 3年  
石川健斗 教養学部 芸術学科 2年  
赤津恵理 教養学部 芸術学科 3年

参加人数 156人

7/12・12/20  
「Music Art Project SUMMER/WINTER CONCERT 2012」を開催  
■ 湘南校舎 松前記念館講堂

「クラシック音楽を身近に感じてもらうこと」を目的として開催。ポップミュージックなども演目に盛り込み、普段クラシック音楽に馴染みのない方でも堅苦しくなく聞ける内容となるように構成しました。

12/2  
「第22回湘南ひらつか第九のつどい」の運営に協力  
■ 平塚市民センターホール

210名を超す合唱団がベートーヴェンの交響曲第9番二短調作品125「合唱付」を歌い上げる一大コンサートにて、本プロジェクトから83名のメンバーが参加しました。

2/26  
第4回学生創作オペラ「NADESHIKO」を公演  
■ グリーンホール相模大野(神奈川県相模原市)

2年に1回定期的に行っているもので、完全オリジナル作品として、作曲・脚本・演出・衣装・舞台美術など、すべてをメンバーが手掛けました。テーマは「人と人のつながりとその大切さ」。なじみの薄いオペラを、親しみやすい物語と音楽で、より身近に感じられるよう心がけて創作しました。



# 環境キャラバン隊

<大学近辺の住民を中心に『身近にできるエコ』を伝える環境啓発活動方法を学ぶ>

主に小学生を対象とし、身近にできるエコを伝える環境教室を開催。そのため「ABC活動(あたりまえのことを、ばかにしないで、ちゃんとやる)」をメンバー内でも徹底して活動に取り組みました。

プロジェクトリーダー サブリーダー  
福井隆一郎 教養学部 人間環境学科 3年  
藤本暹 教養学部 人間環境学科 3年  
西野純一郎 教養学部 人間環境学科 2年  
前田亜莉紗 工学部 生命化学科 2年  
秋葉咲希 教養学部 人間環境学科 2年  
小野寺豪 教養学部 人間環境学科 1年

参加人数 37人

5/27  
地域活性イベント「ふれあい祭りin並木」に出演  
■ 西川口並木商店街(埼玉県川口市)

この企画は、街を活性化させるために生まれた地域通貨、「アトム通貨」の普及を目指したもので、「アトム通貨」は環境、地域、国際、教育に貢献するイベントや、プロジェクトへの参加でもらうことができます。本プロジェクトは地産地消、エコバッグの使用、リサイクルなど身近にできるエコをテーマに盛り込んだ「環境戦隊エコレンジャー」を上演したほか、ゴミ拾いイベント「クリーン大作戦」にも参加し、地域の子どもたちと交流しました。



10/6  
「キャンドルナイト2012」に出演  
■ 新川公園(群馬県桐生市)

「もったいないのこころ」と「自分を支えてくれている人やものへの感謝」をテーマとして、環境劇エコレンジャーショーのほか、6000個のキャンドルを灯し、ライブ演奏会などが行われました。エコレンジャーショーでは節水と節電を中心とした劇を行い、終了後は子どもたちとレンジャーが、一緒にキャンドルを点火。エコバス「天ちゃん号」の説明ブースでは「天ちゃん号」の解説と共に廃油のろ過作業のデモンストレーションを行いました。



11/18  
「第8回あやせ環境展」に出演  
■ 綾瀬市市民文化会館大ホール前ホワイエ

このイベントは市民活動団体や企業が日ごろから取り組んでいる環境活動を、参加しながら楽しく学ぶことができるものです。本プロジェクトは身近なエコを紹介する環境劇「エコレンジャーショー」を午前と午後の2回公演しました。環境劇では5人のエコレンジャーがそれぞれ「節水」「資源の大切さ」「生き物のつながり」「燃料の大切さ」「環境クイズ」について分かりやすく解説。子どもたちと環境に関する質問をやりとりしながら学習を進めました。



# 病院ボランティアプロジェクト

<伝える力・聞く力を学ぶ>

医学部付属病院を拠点に、入院生活を快適に過ごしてもらうことを目的とした病棟ボランティア、音楽団体とコラボレートした癒しのイベント(院内コンサート)を実施するほか、地域住民を対象に医療知識を深めるセミナーの開催、小児患者が楽しみながら治療の大切さを理解する絵本を制作しました。

プロジェクトリーダー サブリーダー  
上沼裕太 工学部 医用生体工学科 2年  
小出栞子 工学部 医用生体工学科 2年  
那須一郎 工学部 医用生体工学科 2年  
鈴木雄祐 工学部 生命科学科 2年  
鈴木大貴 工学部 医用生体工学科 2年

参加人数 60人

6/28・12/22  
第9回、第10回セミナーを開催  
■ 第9回 湘南校舎 松前記念館  
第10回 湘南校舎 8号館401教室

学生・教職員、一般の方を対象に、日常生活で活用できる医療知識を身に付けられるセミナーを開催しました。第9回は「患者のメンタル面にあったサポート」と題し、健康学部看護学科の柳原清子教授に、講演いただきました。第10回は、医者で文筆家の米山公啓氏をお招きし「本当は間違ってる?あなたの医学知識」についてクイズを交えながら講演いただきました。



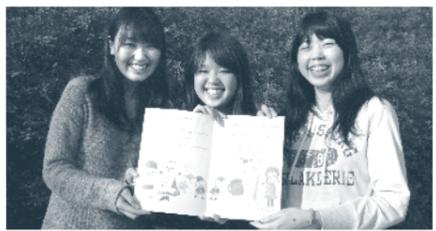
8/8・12/12  
第10回、第11回癒しのイベントを開催  
■ 本学医学部付属病院 東海ホール

患者とご家族を対象に、入院生活で外出できないストレスを緩和させるために季節にちなんだ歌や演奏を披露するコンサートを開催し、今年度は351名の方々に楽しんでいただきました。第10回は「響け!!なつ音」と題し、本学管弦楽団と本センターMusicArtProjectが演奏を行いました。第11回は「FamilyChristmas〜心温まるハーモニー〜」をハンドベルアンサンブルティンカーベルと伊勢原合唱団によるクリスマスソングをお届けしました。



2013年  
小児患者のための絵本「できるもん!!こびとさんのおはなし〜」を制作  
■ 本学医学部付属病院 小児病棟

小児患者たちが苦手とする手洗い・歯磨きや薬の服用について、その大切さを理解し、怖がらず治療に取り組めることを目的とした絵本を手作りしました。制作にあたり、大村師長をはじめ小児病棟スタッフや本学医療系の教員などに、小児患者が嫌がる治療についてヒアリングを重ね、ストーリーを練り上げました。引き続き、メンバーはこの絵本の読み聞かせを特訓し、子供たちに楽しんでもらえるよう工夫したいと抱負を述べています。



12/1  
「第6回富士市環境フェア」に出演  
■ 産業交流展示場「ふじさんめっせ」(静岡県富士市)

このイベントは約100の企業や団体が参加し、エコ商品やエコライフ実践例などの展示と実演により、家庭でも取り組みやすいエコライフを紹介するもので、本プロジェクトは「3R(リユース・リデュース・リサイクル)」をテーマに環境劇「エコレンジャー」を上演しました。また、エコバス「天ちゃん号」の展示と廃油ろ過する工程を実演。劇を鑑賞した子どもたちからは「分かりやすかった」といった意見が多く寄せられました。



12/26・27  
「第10回全国学生環境活動コンテストecocon2012」に参加  
■ 国立オリンピック記念青少年総合センター

学生の環境活動を活性化し持続可能な社会を実現する事を目的として、環境分野の専門家に活動をプレゼンテーションするというコンテストにて、環境戦隊「エコレンジャー」の演出を取り入れ「分析力」「巻き込み力」「本年度の活動成果」「将来性」の各テーマについてプレゼンテーションを行ないました。最終選考に進む事はできなかったものの、審査員の方々からは「発表の方法はユニークで非常に面白かった」といった意見をもらいました。



2/20~28  
「春季キャラバン」を実施  
■ 本学付属小学校/湘南校舎近隣の小学校

本イベントは、「身近にできるエコ」をテーマに、活動拠点である本学付属小学校や湘南校舎近隣の学校を継続して訪問することで、子どもたちにエコ意識が浸透する様子を検証することを目的として、定期的に行っているものです。今回も各地の小学校にバイオ燃料で走るエコバス「天ちゃん号」で訪問。オリジナル環境劇「エコレンジャー」や体験授業を通じて環境保護の大切さを伝えました。



# キャンパスストリートプロジェクト(C.A.P.)

湘南  
校舎

<総合大学らしい地域活性化をするために必要な組織力を学ぶ>

地域交流イベントを行うイベントチーム、フリーペーパー発行のThLive!チームで構成されており、各々が身に付けた組織力・運営力を共有し、より質の高い地域活性化活動を行うことを目標として取り組みました。

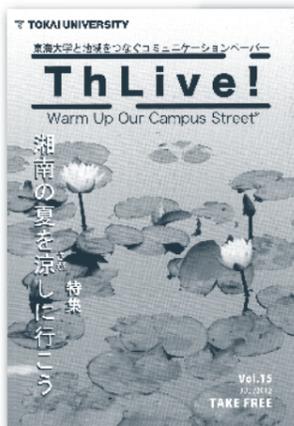
プロジェクトリーダー 吉越彩香 工学部 機械工学科 2年  
広報リーダー 武永雄太 工学部 建築学科 3年  
会計責任者 中野祥太 文学部 心理社会学科 4年

参加人数 42人

7/20

## 「ThLive!」15号を発行

ThLive(スライブ)は、湘南校舎周辺との交流を深め、キャンパスストリートの活性化と、地域や学生の魅力を発見することを目的としたコミュニケーションペーパーです。15号のテーマは「外で涼(さが)す夏の過ごし方」。屋外でも厳しい夏の暑さを快適にするオスメスポットとして、ひらつか花アグリ(平塚市)を紹介しました。また、「あの店・この店・どんな店?」では湘南校舎周辺に位置する飲食店の夏にちなんだスイーツを特集しました。



12/10~25

## 「東海大学クリスマスU-night!」を実施

■ 湘南校舎

東海大学駅前広場にてクリスマスツリーを設置したほか、湘南校舎1号館鉄塔をツリーに見立てライトアップ。16日にはワークショップ「サイエンス実験 スノードームを作る」をサイエンスコミュニケーターと協働実施し約70名が参加しました。さらに19日には「料理教室 お手軽キッチン」を開催。ニドワール洋菓子店の中山氏を講師に招いた料理教室に18名の児童・保護者が参加しました。



# 先端技術コミュニティ ACOT

熊本  
校舎

<センサー制御の確立と地域連携>

プログラミング能力育成、地域・技術連携、高大連携、ロボコン、車いすプロジェクト、農工連携、セキュリティセミナーの7項目を实践。ETロボコンにてチャンピオンシップ初出場を達成しました。

プロジェクトリーダー 板橋大 産業工学部 電子知能システム工学科 3年  
サブリーダー 甲斐未憲 産業工学部 電子知能システム工学科 2年  
大野将 産業工学部 電子知能システム工学科 2年  
国枝桂亮 産業工学部 電子知能システム工学科 2年  
小川幹矢 産業工学部 電子知能システム工学科 1年

参加人数 33人

5/21

## 「金環日食観測会」を実施

■ 熊本校舎

地域の方々をはじめ約180名が参加。当日は雲が多く、残念ながら日食を観測することはできなかったものの、各校舎を繋ぐライブ中継によって、各地の金環日食を見ることができました。メンバーは「今後もこういったイベントで地域の方々と交流を深めたいです」と感想を述べていました。



9/1~2

## 「ETロボコン2012九州地区大会」において総合4位

■ 九州産業大学

「ETロボコン」は組込みシステム開発分野における若年層への分析・設計モデリングの教育機会を提供することを目的としたロボットコンテストです。本プロジェクトは地区大会にて総合4位の成績を収め、全国大会への進出が決定。また、モデル部門において学生奨励賞を受賞しました。



11/14

## 「ETロボコン2012チャンピオンシップ大会」に初出場

■ パシフィコ横浜

今回は全国11カ所で行われた地区大会で上位に入った40チームが出場しました。本プロジェクトは、一般企業の研究者なども参加する高いレベルの中で2度の走行に臨みましたが、いずれも競技前半でコースアウト。総合37位の成績で大会を終えました。



# Takanawa共育プロジェクト

高輪  
校舎

<高輪地域周辺との交流により、社会に通用する能力コミュニケーションの確立>

高輪商店街メリーロードの清掃活動や高輪神輿同好会と連携した神輿担ぎ、クリスマスイルミネーションの点灯など、地域社会との交流で開かれたキャンパスを目指しました。

プロジェクトリーダー 福山祐哉 情報通信学部 組込みソフトウェア工学科 3年  
サブリーダー 高田雄平 情報通信学部 情報メディア学科 3年  
米盛聖也 情報通信学部 通信ネットワーク工学科 2年  
広報リーダー 森山雄大 情報通信学部 経営システム工学科 4年  
会計責任者 秋本恵美 情報通信学部 情報メディア学科 4年

参加人数 34人

通年

## 「気仙沼に贈る高輪神輿募金プロジェクト」を実施

■ 気仙沼ホテル観洋(宮城県気仙沼市)

この取り組みは、長い歴史を持つみこしを、募金を基に修復し東日本大震災によってみこしを失った宮城県気仙沼市の「気仙沼ホテル観洋」に贈ること、復興支援の一助につなげることを目指すものです。11月25日には学生3名と福崎稔教授、港区議会議員のうかい雅彦さんが、宮城県の石巻市、気仙沼市、南三陸町の市街地や港を視察後、ホテルのロビーにみこしと募金箱を運び入れました。続いて、女将を務める田村恭子さんと、地元の祭りに参加している「弁天連」の会頭・藤倉清喜さんらにプロジェクトのこれまでの取り組みを紹介。今後の活動について意見を交換するとともに、旅館に集まった地元住民の方から被災した当時の状況についてうかがいました。メンバーは、「東日本大震災から1年以上が経過していますが、厳しい現状を思い知り、復興支援活動の輪を広げることや、息の長い継続的なプロジェクトの必要性を痛感しています。2013年8月に開催予定の気仙沼みなとまつりまでにみこしの修復ができるよう、募金活動を展開していきたい」と話していました。



# 阿蘇援農コミュニティプロジェクト

阿蘇  
校舎

<農家の現状を発信するとともに自らのスキルアップを図る>

阿蘇地域での援農ボランティア活動を通して、農家が抱える問題や作業環境、農作業の現状を発信しました。

プロジェクトリーダー 長岡美沙紀 農学部 応用植物科学科 3年  
サブリーダー 松本哲 農学部 応用植物科学科 3年  
高橋啓 農学部 応用植物科学科 2年  
広報リーダー 高木明日香 農学部 応用植物科学科 3年  
会計責任者 森元大樹 農学部 応用植物科学科 3年

参加人数 72人

7月~9月

## 九州北部豪雨災害の被害を受けた農家でボランティア活動を実施

今回のボランティア活動では、7月11~14日にかけて九州北部で起きた記録的な豪雨によって被害を受けた南阿蘇村の農家に、2日間でのべ11名のメンバーが訪問。ビニールハウスの通路に堆積した泥を、スコップや手押し車を用いて取り除きました。参加したメンバーは、「多くの水を含んだ泥は想像以上に重くて量も多く、1日では作業が終わりませんでした。被害の大きさを実感することで、ボランティア活動を継続する重要性についてあらためて考えるきっかけとなりました」と話していました。その後本プロジェクトでは、8月7~11日までは産山村、16~19日には西原村、21~27日 南阿蘇村、9月4~10日 阿蘇市に各5~10軒の農家を訪ね、要望に応じてボランティア活動を実施するとともに除草や収穫などの農作業を手伝いました。この活動を企画したメンバーの本橋創さんは、「いつもお世話になっている農家の方が被害を受けたという知らせを聞き、自分たちに何かできることはないかとメンバーと相談してボランティア活動を決めました。地域の復旧に向けて、少しでも力になればうれしい」と話していました。



# あにまるれすきゅープロジェクト



＜動物愛護の知識を小中学生に伝えることで教える力を身につける＞

不幸な動物を一匹でも多く救うために情報を発信していく。小中学校を訪問して紙芝居や劇で分かりやすく動物愛護の現状を紹介するとともに農家との交流会を行いました。

プロジェクトリーダー 福田汐梨 農学部 応用動物科学科 3年  
 サブリーダー 中井彩香 農学部 応用動物科学科 3年  
 山口西 農学部 応用動物科学科 2年  
 橋本歩果 農学部 応用動物科学科 3年  
 渡邊聖彩 農学部 応用動物科学科 3年

参加人数 61人

10/27~28

「夢まちランド」に参加

■ 熊本市中央区桜町一帯

熊本市中央区桜町一帯で開催された熊本県民テレビ(KKT)主催のイベント「夢まちランド」に参加しました。本プロジェクトは動物愛護ブース内で迷子札の啓発活動及び紙芝居の読み聞かせを実施しました。迷子札ブースには沢山の参加があり、参加者はプロジェクトメンバーのサポートを受けながら制作に取り組んでいました。手作り紙芝居では、子どもたちを対象に動物の「命の大切さ」について読み聞かせを行いました。参加したプロジェクトメンバーは「多くの方に動物愛護の事について理解していただけて嬉しい。これからも様々な機会を利用して、ペットを飼うことに伴う責任を訴えるとともに、殺処分数が少しでも減少するよう努めていきたいです」と話していました。



# 福祉除雪プロジェクト



＜プロジェクト活動を通して安全安心な街づくりに貢献し、高齢者や地域の方々とのコミュニケーションを図り社会性を学ぶ＞

高齢化社会において、地域貢献として冬の除雪活動を実施。また、雪の降らない季節は高齢者にとって過酷な草刈り作業、畑作業、荷物運びの手助けを行いました。

プロジェクトリーダー 桑原通 国際文化学部 国際コミュニケーション学科 4年  
 サブリーダー 七戸桂馬 国際文化学部 地域創造学科 4年  
 谷口千尋 国際文化学部 地域創造学科 4年  
 熊田なつ美 生物理工学部 生体機能科学科 4年  
 広報リーダー 金田紗季 国際文化学部 国際コミュニケーション学科 4年  
 会計責任者

参加人数 94人

11/27

「北海道警察サイバーパトロール防犯ボランティア研修会」に出席

■ 札幌校舎マルチメディアホール

この研修会は、インターネット犯罪の摘発に大学生に協力してもらおうと、北海道警察が行っている「サイバーパトロール防犯ボランティア」の広報活動の一環として行われ、ボランティアへの参画が決定している福祉除雪プロジェクトのメンバー39名が受講しました。研修会では、道警本部サイバー犯罪対策室から講師を迎え、サイバー犯罪の現状や偽ブランド品の販売などの事件の解説や、発見した場合の通報の仕方などの説明を受けました。



12/18

「出陣式」を開催

■ 札幌校舎

5年目を迎えた今年度は、学生約87名が参加し、70世帯を対象に除雪活動を実施。出陣式は、北海道警察札幌方面南警察署の中坂稔署長をはじめ北海道警察本部生活安全企画課、同少年課、北海道くらし安全局道民生活課、札幌市南区役所保健福祉課から来賓をお招きして実施し、活動に向けた決意を表明しました。なお今冬の札幌市は積雪が多いため、出陣式に先駆けて12日から活動を開始しており、すでに15世帯で除雪を行いました。



# チャレンジセンター所長賞

【受賞要件】

プロジェクト活動を通じて社会に貢献できる「集い力・挑み力・成し遂げ力」を身に付けた学生に対し、「チャレンジセンター所長賞」を授与しています。2012年度は4キャンパス12名の卒業生が選ばれました。

- ①チャレンジプロジェクトに加入して2年以上活動した者
- ②プロジェクトリーダーを務めた経験がある者
- ③プロジェクト修了認定を2回以上受けている者
- ④卒業後の進路が決まっているもの

校舎名	プロジェクト名	氏名	リーダー経験年度
湘南校舎	病院ボランティアプロジェクト	山田 裕樹	2010
	スポーツ社会貢献プロジェクト	立谷 勇樹	2011
	Music Art Project	松ヶ野 嵯和	2011
	サイエンスコミュニケーター	梶田 聡史	2011
	環境キャラバン隊	篠宮 英介	2011
	キャンパスストリートプロジェクト	宮田 いずみ	2010
	Tokai Formula Club	賀来 大介	2011
	東海大学学生ロケットプロジェクト	小黒 純平	2012
	先端技術コミュニティACOT	藤垣 昂士	2011
	阿蘇援農コミュニティプロジェクト	大熊 健太	2011
阿蘇校舎	あにまるれすきゅープロジェクト	八代 梓	2011
	福祉除雪プロジェクト	桑原 遙	2012

# チャレンジプロジェクト学科別参加人数

学部	学科	人数
国際文化学部	地域創造学科	41
	国際コミュニケーション学科	22
	デザイン文化学科	2
生物理工学部	生物工学科	4
	海洋生物科学科	16
	生体機能科学科	2
生物学部	生物学科	3
	海洋生物科学科	4
情報通信学部	情報メディア学科	10
	組み込みソフトウェア工学科	8
	経営システム工学科	7
	通信ネットワーク工学科	9
	文学部	文明学科
文学部	アジア文明学科	2
	ヨーロッパ文明学科	1
	アメリカ文明学科	10
	北欧学科	6
	歴史学科	7
	日本文学科	3
	文芸創作学科	1
	英語文化コミュニケーション学科	10
	広報メディア学科	21
	心理・社会学科	15
観光学部	観光学科	23
政治経済学部	政治学科	14
	経済学科	4
	経営学科	5
法学部	法律学科	9
	人間環境学科	46
教養学部	芸術学科	134
	国際学科	38
	理学部	数学科
理学部	情報数理学科	2
	物理学科	19
	化学科	15
	情報理工学部	情報科学科
情報理工学部	コンピュータ応用工学科	9

学部	学科	人数	
工学部	生命化学科	14	
	応用化学科	10	
	光・画像工学科	3	
	原子力工学科	6	
	電気電子工学科	18	
	材料科学科	16	
	建築学科	21	
	土木工学科	3	
	精密工学科	15	
	機械工学科	34	
	動力機械工学科	77	
工学部	航空宇宙学科	77	
	医用生体工学科	19	
	体育学部	体育学科	1
	競技スポーツ学科	1	
体育学部	生涯スポーツ学科	7	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	57	
健康科学部	社会福祉学科	1	
総合経営学部	マネジメント学科	2	
産業工学部	電子知能システム工学科	29	
	機械システム工学科	2	
農学部	応用植物科学科	32	
	応用動物科学科	67	
	バイオサイエンス学科	22	
学部生 計		1069	
文学研究科	文明研究専攻	1	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	1	
理学研究科	物理学専攻	1	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	1	
	建築学専攻	13	
工学研究科	電気電子システム工学専攻	1	
	航空宇宙学専攻	7	
	情報工学専攻	1	
大学院生 計		26	
別科日本語研修課程		2	
別科生 計		2	
合計		1097	

# ユニークプロジェクト

## 【湘南校舎】

**障害者自立支援プロジェクト**  
 (1)「秦野精華園」と協働して施設利用者の経済的・社会的自立を目指す。(2)週2回のパン販売やニュースリリースの発信を行う。(3)福祉をテーマに勉強会を開催する。

**SEE Project**  
 (1)「日韓こども環境交流プロジェクト」を開催する。(2)環境教育教材を開発する。(3)「東海大学環境白書2012」を発行する。

**エコ・コンクリートカーヌープロジェクト2012**  
 「エコ・コンクリートカーヌーコンペ」に出場し、優勝を目指す。技術を向上させ、ゆがみのない美しいカーヌーを製作する。

**きらさら実験教室**  
 小学生から高校生を対象に、理科への興味や関心を引き出す教材やイベントを企画・実施する。

**ヒューマノイド研究チームプロジェクト**  
 日本最大の二足歩行ロボット大会「ROBO-ONE」出場を目指す。新しい競技用の二足歩行ロボットの開発・製作を行う。

**Same Same but TOKAI**  
 国際NGO「Habitat for Humanity」の学生支部として活動し、募金活動やイベントを行う。SNSで活動内容を発信する。

**リトル・クリエイターズ・プロジェクト(LCP)**  
 「立場をこえて理解しよう」をテーマに、「問題の当事者とそうでない人たちの立場と意識の違い」を社会的な手法で調査する。台湾を訪問し、同世代の若者と議論しながら交流を深める。

**TOKAI DESIGN PROJECT 2012**  
 「+1」つながりのデザインをテーマに生活や心を豊かにする企画を実践。TOKYO DESIGNERS WEEK 2012に出展する。

**DAN DAN DANCE プロジェクト**  
 「DAN DAN DANCE & SPORTS」の公演などダンスパフォーマンスを企画・実施する。他団体と共に公演を行う。

**ChildワクチンBank**  
 学生や地域住民の助け合いの気持ちを育み、国際協力への意識を高める。ペットボトルキャップを回収し途上国支援に役立てる。

**留学生のためのガイドブック作成プロジェクト**  
 留学生の意見を取り入れた「留学生のための東海大学キャンパスガイド」を改定し、キャンパス内の留学生全員に配布する。

★**東海大学発世界へ向けた「子供の肥満を防ぐ」健康推進運動**  
 プロジェクトが作成したリーフレットを用いて、経済新興国での糖尿病増加を阻止する啓発活動を実施。リーフレットは各国語に翻訳し、留学生の帰国の際に小学校との連携を模索する。

★**HRE-Airplaneプロジェクト**  
 水素燃料ロータリーエンジン搭載のラジコン飛行機を製作し、技術を披露する「FC航空ページェント」出場を目指す。

★**Tokai Social Business Program**  
 「ソーシャル・ビジネス・アイデア・コンテスト」に学生グループとして参加し、社会貢献への意識を高める。

**ライトプレーンプロジェクト**  
 「飛行ロボットコンテスト」での優勝を目指して、小型飛行機的设计・製作を行う。基礎物理から飛行力学までを学ぶ。

## 【札幌】

**地域連携研究プロジェクト**  
 行政や地元放送局と連携してキャンパスのある南区の魅力を発信するイベントを考案する。特産物の商品開発を行う。

## 【高輪】

★**ロボP**  
 「速い・安定・完走」をコンセプトに、ETロボコンの基礎技術の向上と開発を行い、ETロボコン大会での優勝を目指す。

**ロボコン道場**  
 「ESSロボットチャレンジ」「D2Cコンテスト」に出場し、アプリケーション開発能力と設計技術のスキルアップを図る。

**Java Programming Contest in Tokai Takanawa (JPCin2T)**  
 Javaを用いたアプリケーション開発コンテストに参加し、最優秀賞を狙う。専門分野を生かして新しいシステム開発をする。

## 【清水】

**ワンダフル・マリニアマルズ**  
 「海についてもっと興味をもってもらおう」をテーマに、障害者や海について知らない人など、さまざまな人を対象に活動を実施。保有する魚型水中ロボットを活用した出展や講演を行う。

★**三保活性化プロジェクト**  
 海洋学部がある静岡市清水区地域活性化を目指し、地域行事に積極的に参加する。学童保育でのつくりを通じた交流を行う。

★**海の森プロジェクト**  
 海藻の海を作り、周辺環境の変化や影響を調査する。放射線の除染効果が期待されるコンブを被災地に送るなど支援活動を行う。

## 【熊本】

**肥後のたまも**  
 ビジネスコンテストでの入選を目標とする。地元農家のウェブサイトの作成及び管理を行う。地域イベントに積極的に参加する。

★**Design and Create**  
 地域に根づく大学を目指して「商店街活性化活動」、小学校での「プレイパーク」、「オリジナル家具作り」を実施する。

★**熊本地域プロデュースプロジェクト**  
 「農業」「観光」「スポーツ」をキーワードに、県南の多良木町の農作物や観光資源を東海大学のリソースと融合させ、地域活性化のビジネスモデルを完成させる。

★**“sync”スポーツ**  
 熊本県全域でのスポーツイベントの企画、運営を目指す。スポーツへの意識調査を行い、他組織との共同イベントを開催する。

★は今年度新規プロジェクトです。

## 7/21 <熊本地域プロデュースプロジェクト>が多良木町の観光振興に協力

■多良木町(熊本県)

熊本校舎に2013年度より観光ビジネス学科が新設されるのに伴い、12年度から3~5年ほどかけて多良木町に振興案を提言する活動が始まりました。メンバーは町内の交流施設や国重要文化財「太田家住宅」などを視察したほか、簡易宿泊施設「ブルートレインたらぎ」の宿泊状況について説明を受け、球磨川沿いのサイクリングロードを利用したスタンブラリーなどのイベントを提案しました。



## 8/8・9 <SEE Project>が「東海大学日韓こども環境交流プロジェクト」を実施

本企画は環境問題解決にむけての国際協力を目標に、韓国の中高校生と環境科学教室を通して交流を図ることを目的としたイベントで、今回は、本プロジェクトより7名、OB・OG2名、韓国より中学生29名、高校生6名、通訳・運営ボランティアとして韓国の高校・大学生12名が参加。変化する環境を記録するため、ソウル市内を撮影するフィールドワークや、環境に負荷をかけない測定方法の判断基準を学習することを目的とした環境科学実験「NOx測定のグリーン分析」を行いました。また、プロジェクトリーダーの池田二郎君(地球環境科学研究科 博士課程3年)による特別講演「日本の中高生の現状」のほか、「環境シンポジウム」において本プロジェクトの研究発表を、意見交換を行いました。さらに、日本と韓国の双方が両国についての理解をより深めることを目的として、「カルタ大会」や「スイカ割り」、そうめんを食べるなどの文化体験も行われました。



## 9/15 <三保活性化プロジェクト>が地域交流イベント「Active三保~三保で遊ぼう!!」を開催

■東海大学社会教育センターなど

このイベントは、地域住民との交流を深め、活性化につなげようと、近隣の三保生涯学習交流館や自治会と共同で昨年度から実施しているもので、清水校舎近くにある東海大学社会教育センターなどで開催されました。小学生から大人まで多数の市民が参加したイベントでは、グループごとに三保の松原や御穂神社などの史跡を巡る「ウォークラリー」と東海大学海洋科学博物館を見学する「海のひろば」を実施。ウォークラリーでは、参加者が学生考案のクイズに挑戦しながら、史跡にまつわる昔話などを学んでいました。また社会教育センター内の広場では、地元のダンスサークルによるステージショーや岩石を割って中の様子を確かめる体験実験コーナーなどを実施しました。企画した学生たちは「参加者の方から面白かったのでまた参加したいとの感想を多くいただくなど、イベントを成功させることができるとうれしく思います。今後は海洋学部の特徴を生かした企画をより多く実施することで、学部の魅力に触れられるようなイベントも実施していきたい」と語っていました。



## 10/30 ~11/5 <TOKAI DESIGN PROJECT>が「TOKYO DESIGNERS WEEK 2012」に出展

■東京・神宮外苑

東京・神宮外苑を中心に開催されたデザインフェア「TDW2012」に出展しました。今回の出展テーマは「HOUSE」と「PLAY」です。TDPチームは「+1」つながりのデザインをテーマに、生活や心を豊かにするプロダクトやオブジェなど5作品を制作しました。出展作品は、「旅心」をテーマにONとOFF時の流れる時の感覚を表現した「クロノス」。「里心」をテーマに、大黒柱がない家でも子どもの成長が記録でき、かつ保存することのできる「メモリーメジャー」。「男心女心」をテーマに、男女のシルエットに光をあてて壁にハート型の影を浮かび上がらせる「ヒューマン」など、「HOUSE」からイメージした「つながりのデザイン」を発表しました。制作にかかわった学生は、芸術学科デザイン学課程の1~3年次生を中心にのべ18名。学年をこえて構成されたグループごとに、共同作品として制作に取り組みました。学生たちは春から毎週ミーティングを行って議論を重ね、出展1カ月前からはグループごとに協力し合い、未経験の材料や加工方法に挑戦して作品を完成させました。



## <ワンダフル・アニマルズ>が「みんなであつなぐ元気が出るドリームサイエンス2012 in Shimizu」に出展

■東海大学付属翔洋高等学校

地域住民など約1,400名の来場者を集めたイベントに「ワンダフル・アニマルズ」が参加しました。当日は、水圧実験装置を使って発泡スチロールのカップを収縮させる実験「水圧を見てみよう」や、学生が製作した魚型水中ロボットの実演、海洋学部と北海道・根室市が共同で開発しているサンマバーガーを紹介する「サンマ資源を活用した学校給食用食材と加工技術の開発研究」など5ブースを出展。各ブースでは、発泡スチロールが縮んでいく様子を見た小学生が目を見開いて驚いたり、サンマバーガーを試食した来場者が「おいしい!」と声を上げる姿が見られました。メンバーは、「小学生の目線に立って教えることの難しさや、人に伝える楽しさを実感することができました。また、企業の方や他学部による実験を目にし、参考になるものも数多くありました。今回の経験を生かし、次の機会があればまたぜひ出展したいと思います」と話していました。



# チャレンジセンター開講科目

チャレンジセンターは、集い力・挑み力・成し遂げ力を身に付けることによって建学の精神を培うという教育理念のもとで、総合大学としての多様性を活かし、学部・学科単独ではできない、社会とのつながりの中での実践的な教育を行っています。

チャレンジセンターが開講する科目には、2つの科目群(図参照)があります。

## [1.社会的実践力副専攻]科目群

(1)目標を見つけ、計画を立て、実行する方法を体験的に学ぶための科目群(「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」「プロジェクト入門」「プロジェクト実践」など)を「社会的実践力副専攻」として開講しており、社会に出てから通用する実践力を身に付けます。

## [2.ジャーナリズム実践教育特定プログラム]

(2)より高度な実践力を身に付けるジャーナリズム実践教育のための科目群(「ジャーナリズム史」「メディア概論」「国際、政治、出版ジャーナリズム」など)を「ジャーナリズム副専攻」「ジャーナリズム実践教育特定プログラム」として開講しています。公共的な価値に基づいて「情報を選別し、加工し、多くの人々へ提供する作業」を担う人材を育てます。

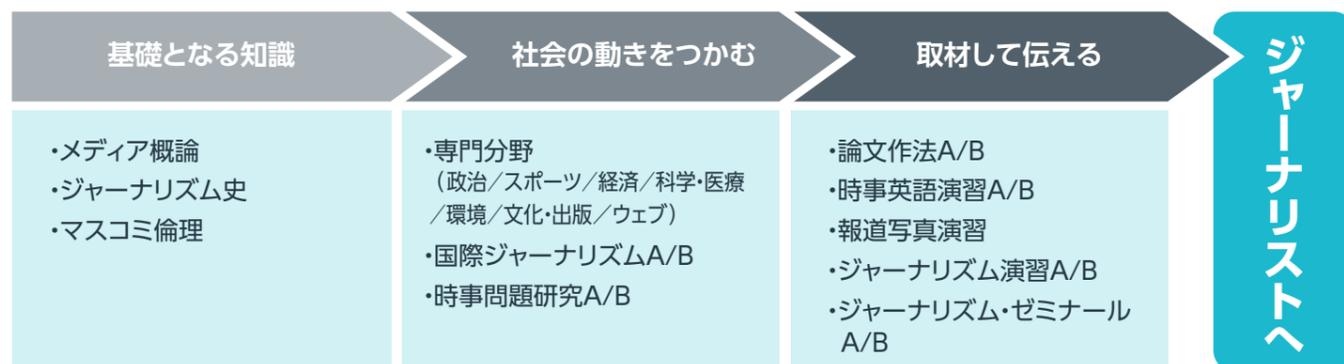
昨年度に引き続き本年度も、理系教育プログラムとして、プロジェクト入門Cを画像工学科および物理学科教員と共同で授業運営しました。また、文部科学省通達「東北地方太平洋沖地震に伴う学生のボランティア活動について」(23文科高第7号、H23年4月1日付)に基づき、教学部とチャレンジセンターが連携して、東日本大震災のボランティア活動への参加から単位認定までを制度化し、運用しました。

※2010年度カリキュラム改訂によって、科目名称のI・II・IIIという番号が、(入門)・(演習A)・(演習B)またはA・B・Cに変更となりました。

## 社会的実践力副専攻科目を受講して身に付く能力



## ジャーナリズム実践教育特定プログラム



## 自ら学ぶ意欲を引き出す理系教育プロジェクト

2010年度より学生の意欲を引き出すプロジェクト型教育として、理系学部・学科の授業内容及び研究内容に興味を持たせる授業を展開しています。本年度は、昨年度に引き続き、工学部光・画像工学科 渋谷猛久教授とチャレンジセンター岡田工教授にて、3Dテレビについて、さらに、理学部物理学科 榎田淳子講師と岡田工教授にて、「流星を観測しよう」というテーマで『プロジェクト入門C』を開講しました。流星は多くの学生たちも興味を持つテーマであり、特に電波観測の場合、夜だけでなく昼間にも観測が可能となるということで学生たちも楽しみながら学べる授業内容でした。グループによって異なる流星群のデータを解析することにより、各流星群の特徴を発見することができました。同一の流星群について多地点観測したデータをグループごとに解析し、各グループのデータを基に流星が

どこからどのように流れたのかを観測しました。この授業では、個人のデータ解析だけでなく、グループの協力で1つの流星群を解析できる面白さがあります。今年度の履修者数は25名であり、その内訳は、工学部8名、理学部6名、情報理工学部3名、法学部3名、教養学部3名、政治経済学部1名、文学部1名でした。



## 東日本大震災ボランティア活動単位認定

チャレンジセンターでは、学生たちの震災復興ボランティア活動に対して単位の認定を行いました。所定の書類を提出し、下記要件を満足した学生にチャレンジセンター教授会の議を経て、認定単位Nを付与しました。

### 事前提出書類:

東日本大震災ボランティア活動届出および単位認定申請書

### 事後提出書類:

活動報告書、活動日誌、活動写真(数枚)、協働者サイン(1名)

### 活動の実働時間:

合計30時間以上

### 活動内容:

被災地復興、避難者の支援に関わる活動等(募金活動は含めず)プロジェクト実践A・B・C・Dの中から、1セメスター当たり2単位(最大4セメスター、8単位まで)を限度に付与しました。今年度は、24名に単位が認定されました。チャレンジセンターでは、「災害ボランティアに関する心得」を配布し、ボランティアに参加する学生に活動上の注意を促しました。また、プロジェクト入門A(園田由紀子講師担当)では、「社会に貢献できるボランティアの担い手になる」というテーマで、今回の震災と求められるボランティアについて考察する授業が行われました。

## 2011年度学部等研究教育補助金の報告

2011年度は、本センターにおいて1件の研究計画が学部等研究教育補助金の対象になりました。

### 計画名:

情報端末を活用したプロジェクト型授業内容及びに評価に関する 研究 教員:岡田工(研究代表)、崔一英、園田由紀子、堀本麻由子

チャレンジセンター科目では、様々なグループワークや協働作業を通じた体験学習が行われています。それらの成果発表として、グループによるプレゼンテーションが行われています。グループでの討議や活動をする上で、移動機の一般教室が使いやすく、効果的であります。しかし、発表についてはパソコンを使ってパワーポイントを作成し、それを利用したほうが効率的かつ、質の高い発表が可能です。これらを実現するために、一般教室とパソコン実習室を相互に行き来しながら

授業を行うことが望ましいが、不可能な状況です。また、コンピュータを使う作業の場合、担当となった学生1人に大きな負担がかかってしまいます。チームワークという観点からも問題が見られます。

この研究では、これらのグループワークによる協働作業を維持しながら、効果的な発表準備と発表を行うためにiPadなどの情報端末を用いたプロジェクト型の授業、評価について検討をしています。2011年度は、iPad7台、管理用PC1台を購入し、一般教室で4~5人のグループに1台を使いながら情報検索、プレゼン資料の作成を行いました。実施した授業は、岡田教授担当の挑み力(演習B)、プロジェクト入門A、堀本講師担当の成し遂げ力(演習A)です。研究の成果は、私情協H24年度教育改革ICT戦略大会において発表しました。

# チャレンジセンター開講科目

## 社会的実践力副専攻

チャレンジセンターは、本学建学の精神に基づき、2006年より、集い力、挑み力、成し遂げ力、さらには、プロジェクト型学習による総合的な実践力を身につけるための科目を開設してきました。2010年のカリキュラム改訂により、科目の目的、体系化を行い、社会的実践力副専攻を新たにスタートさせました。これにより、低年次から、実践力を身につけたいという学生が多く履修するようになりました。

### ■ 開講科目概要

#### 集い力

##### 【入門】

コミュニケーションの基本を理解し、他者との関係開始や印象形成、集団における役割獲得、合意形成の方法、自己開示など、初対面の人とチームを作り、メンバーやリーダーとなるために必要な基本スキルを学ぶ。

##### 【演習A/演習B】

ランダムなチームを作り、設定された目標に向かい、協力しながら、実際に活動する中で、より実践的な方法で、集い力を身に付ける。グループでのビデオ編集や創作劇などの演習を行う。

#### 挑み力

##### 【入門】

無関心から脱却し、知的好奇心を自ら喚起できる能動的思考力、発想力、構想力の基礎的なスキルを学ぶ。具体的には、問題発見力、客観的思考力、多角的視点獲得、論理的思考力などを様々なトレーニング課題から学ぶ。

##### 【演習A/演習B】

与えられたテーマや自ら発見した課題に対し、解決・改善までのプロセスをアクションラーニング理論や協働学習理論を通して学ぶ。また演習Bでは、東海大学検定作成やギネス記録チャレンジなど難しい課題に実際に挑戦する。

#### 成し遂げ力

##### 【入門】

夢や希望を実現するために必要な成し遂げる力は、プロセスを様々な視点からマネジメントする力である。プロジェクトの工程管理、危機管理、人々を束ね動かすチームマネジメントなど、マネジメントの基礎知識を理論とワークから学ぶ。

##### 【演習A/演習B】

チームや組織が協働学習の中で、目標を成し遂げていくためのリーダーシップやプロジェクトマネジメントについてチーム演習を通して学ぶ。演習Bでは、キャリアやグラフィックなどの特定分野の知識を踏まえ、目標達成までのデザインを体験的に学ぶ。

## プロジェクト入門A/プロジェクト入門B/プロジェクト入門C

集い力、挑み力、成し遂げ力をプロジェクト体験型で学ぶ授業。様々なテーマや課題を個人やチームで企画、達成する中で社会的実践力を養う。

##### 【2012年度授業テーマ】

- ・東日本大震災の真の被災者支援プロジェクト
- ・中高生に向けた理科教材開発プロジェクト
- ・天文観測プロジェクト
- ・科学的にウォーキングを活用するプロジェクト
- ・説得的コミュニケーション開発プロジェクト
- ・3D映像技術調査プロジェクト
- 他

## プロジェクト実践A/プロジェクト実践B/プロジェクト実践C/プロジェクト実践D

プロジェクト活動と連動しながら、プロジェクトに活かせる実践的なスキルを学ぶ授業。

##### 【2012年度連動プロジェクト】

- ・ライトパワープロジェクト
- ・サイエンスコミュニケーター
- ・留学生のためのガイドブック作成プロジェクト
- ・障害者自立支援プロジェクト

## ■ チャレンジセンター開講科目履修学生 ～2012年チャレンジセンター秋semester履修動向調査～

### チャレンジセンター履修動向調査

チャレンジセンター社会的実践力科目を中心に、履修を希望する学生に向けたアンケート調査を9月に実施した。学生にとってのチャレンジセンター科目とは?どのような学生が選択しているのか、履修者像を調査した。(2012年9月調査:プロジェクト実践除く)

### プロジェクト実践を除く社会的実践力系科目を希望した学生は1237名(重複あり)

入門系科目では、多くの学部から希望者が集まっている。中でも政治経済学部、体育学部が150名を超え非常に多くなっていた。これに対し、演習系科目では、文学部が80名と多く、プロジェクト入門では、工学部が54名と最も多くなり、科目群ごとに特徴が見られた。セメスターは、入門系で2セメスターがもっとも多く、次いで4セメスターと低年次が多くなっている。演習系では、最も多いのが4セメスター、プロジェクト入門では、6セメスターが60%を超えるなど、入門→演習→プロジェクト入門と履修学生の学年が高くなっていることが分かった。さらに、履修希望者の65%が、チャレンジセンター科目を初めて履修する学生であり、入門系科目ではこの傾向が顕著だった。

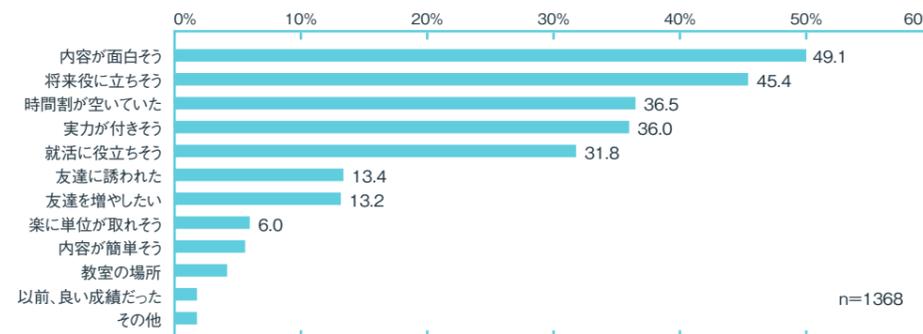
チャレセン科目 履修者所属 学部一覧	合計	学部										
		文学部	情報理工学部	工学部	体育学部	教養学部	法学部	健康科学部	政治経済学部	観光学部	理学部	海洋学部
全体	1237	186	24	212	196	95	88	10	254	40	102	30
	100.0%	15.0%	1.9%	17.1%	15.8%	7.7%	7.1%	0.8%	20.5%	3.2%	8.2%	2.4%
集・挑・成・入門	727	97	5	98	153	51	58	4	188	19	54	0
	100.0%	13.3%	0.7%	13.5%	21.0%	7.0%	8.0%	0.6%	25.9%	2.6%	7.4%	0.0%
集・挑・成・演習	353	80	7	60	29	36	20	6	49	17	19	30
	100.0%	22.7%	2.0%	17.0%	8.2%	10.2%	5.7%	1.7%	13.9%	4.8%	5.4%	8.5%
プロジェクト入門	157	9	12	54	14	8	10	0	17	4	29	0
	100.0%	5.7%	7.6%	34.4%	8.9%	5.1%	6.4%	0.0%	10.8%	2.5%	18.5%	0.0%

チャレセン科目 履修者 セメスター	合計	学部					
		2セメ	4セメ	6セメ	8セメ	10セメ以上	
全体	1237	380	367	392	85	13	
	100.0%	30.7%	29.7%	31.7%	6.9%	1.1%	
集・挑・成・入門	727	279	211	171	58	8	
	100.0%	38.4%	29.0%	23.5%	8.0%	1.1%	
集・挑・成・演習	353	94	109	126	19	5	
	100.0%	26.6%	30.9%	35.7%	5.4%	1.4%	
プロジェクト入門	157	7	47	95	8	0	
	100.0%	4.5%	29.9%	60.5%	5.1%	0.0%	

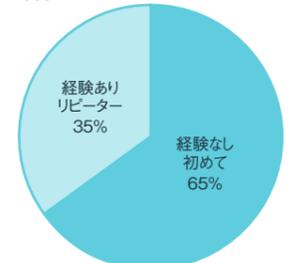
### 「面白そう」「役に立ちそう」「実力がつきそう」 チャレンジセンター科目への学生のイメージ

チャレンジセンター科目を履修しようと思った理由を調査したところ、約半数の学生が、「内容が面白そう」、ついで「将来役に立ちそう」が45%を超え、高い割合となった。学生の多くが、社会的実践力を学ぶ様々な体験型学習に興味を持っていることが伺える。また、「将来役に立ちそう」「実力が付きそう」「就活に役立ちそう」など、スキルアップに期待をする学生も多く、面白くて役に立つ授業として認知されていることがわかる。反面、「時間割が空いていた」という消極的な理由を上げる学生も1/3を超えており、授業におけるモチベーションの喚起が課題となる。ただし、「楽に単位が取れそう」という楽勝科目イメージを持った学生は少なく、能動的、意欲的な学生が多く希望していることが分かった。

チャレンジセンター科目を履修しようと思った理由



チャレンジセンター科目の履修経験 n=1305



### 今後の課題・展開

科目を履修したいという学生の多くが、チャレンジセンター科目に対し、積極的な学びを期待していることが分かった。反面、授業を履修後、再度チャレンジセンター科目を履修しようというリピーターの割合が低く、継続的な学習意欲の喚起や授業相互のつながりを作っていく必要がある。また、学生が授業を通して期待する将来役に立った、実力が付いたという評価をどのように確認していくか、より高い評価のためにどのような改善が必要かなど、今後も様々な取り組みを行ってきたい。

## ■ 授業での学びを高めるルーブリック —学生が自ら学習目標を設定し、成長を自覚するために—

チャレンジセンター科目では、学生が主体的に学習活動に取り組み、また自らの学習経験をふりかえることを通じて、実践的な能力を育成することを目指しています。このような学びの過程において、学生が自ら学習目標を設定できるように、そして受講を通じて自分がどれほど成長したのかを自覚できるように、ルーブリックを教育手段として導入しました。ルーブリックとは、学習成果を数値化した指針のことを意味し、学習者が到達しているレベルを示す評価基準が設定されています。表1は、成し遂げ力(入門)の授業で用いた5段階の評価基準を表しています。チャレンジセンター科目では、各科目の評価基準を学生に示し、自分がどのレベルに到達したいかという目標を自己設定させるとともに、現在の自分がどのレベルにあるかを自己評価する機会を設けました。

## 2012年度春学期「成し遂げ力(入門)」におけるルーブリックの使用とその成果

初回授業時と期末試験時にルーブリックを用いた指導を行いました。初回授業時にはルーブリックの一覧表(表1)を配布し、「この授業を通じて、今学期の終わりまでにどのレベルに到達したいか、自分で目標を定めてください。現在の自分のレベルを考慮した上で、今学期の終わりまでにどこまで自分を成長させたいかという目標を定め、それを意識しながら受講してほしいと思います。これは、主体的に学習に取り組んでもらうために大切なことです。」と説明しました。そして「いま現在、あなたは以下の文章のどれにあてはまると思われますか。」「今学期の終わりまでに、あなたは以下の文章のどれを目標として達成しようと思われますか。」という2つの質問に回答してもらいました。また、学期末の定期試験時にも同じルーブリックを示して「いま現在、あなたは以下の文章のどれにあてはまると思われますか。」とたずねました。各質問に対する回答の平均値をあらわしたのが表2です。

初回授業時の自己評価の平均はいずれも2点台、初回授業時の目標の平均は4点台、期末試験時の自己評価の平均は3点台でした。期末時の自己評価は、自己設定した目標値までは至らなかったものの、受講前と比較すると高い数値となっており、受講を通じて自己成長感を得られたことがわかります。このような成長を自覚することによって、今後の学習意欲が高まり、自律的に学習を進めていく姿勢を身につけることが期待できます。

表2.「成し遂げ力(入門)」における目標設定と自己評価の分析結果

	初回授業時の自己評価	初回授業時の目標	期末試験時の自己評価
工程管理A	2.49	4.53	3.43
工程管理B	2.72	4.39	3.39
実行と継続A	2.63	4.23	3.46
実行と継続B	2.67	4.39	3.56
分析と修正A	2.79	4.33	3.44
分析と修正B	2.63	4.38	3.21

表1.「成し遂げ力(入門)」における評価基準

<b>【工程管理A】</b>
5 現実的な制約を十分に考慮して、必要な資源を適切に配分した作業予定を作成できる。
4 必要な資源を適切に配分した作業予定を作成できるが、現実的な制約をあまり考慮できていない。
3 必要な資源の種類や量はわかるが、適切な配分(分担・順序・タイミングなど)がよくわからない。
2 必要な資源の種類はわかる。
1 目標達成のために必要な資源(人材・物資・時間など)がよくわからない。
<b>【工程管理B】</b>
5 予定外の障害にあったとしても、新たな資源獲得や予定修正などによって柔軟に対応できる。
4 予定外の障害にあったとしても、確保済みの資源をやりくりして対応できる。
3 予定外の障害がなければ、確保した資源を作業予定どおりに運用できる。
2 資源を確保できるが、作業を予定どおりに進めるのは困難である。
1 作業予定にもとづいて資源を確保できない。
<b>【実行と継続A】</b>
5 グループ全体の意欲を高く保ち、計画を実行・継続できる。
4 自分だけではなく他者の意欲も高く保ち、計画を実行・継続できるように働きかけられる。
3 自らの意欲を高く保ち、計画を実行・継続できる。
2 他者からの手助けや励ましがあれば、計画を実行・継続できる。
1 計画を実行・継続できない。
<b>【実行と継続B】</b>
5 失敗や困難から前向きに教訓を学びとり、さらなる向上を目指して意欲が高められる。
4 失敗や困難から前向きに教訓を学びとり、これまでどおりの意欲を維持できる。
3 失敗や困難に面しても、自発的に前向きに考えることができる。
2 失敗や困難に面しても、他者からの手助けがあれば、前向きに考えることができる。
1 失敗したり、困難が予想されたりすると、意欲を失ってしまう。
<b>【分析と修正A】</b>
5 活動過程や成果の良かったところ・悪かったところの原因を分析し、大胆な改善策を立てられる。
4 活動過程や成果の良かったところ・悪かったところの原因を分析し、今後の対策を立てられる。
3 活動過程や成果の良かったところ・悪かったところを挙げ、その原因を分析して説明できる。
2 活動過程や成果の良かったところ・悪かったところを挙げられるが、原因がよくわからない。
1 これまでの活動過程や成果をふりかえろうとしない。
<b>【分析と修正B】</b>
5 活動成果の将来的意義や社会的意義を見だし、さらに意義を高めるための次の計画を立てられる。
4 活動成果について、将来的意義や社会的意義を見いだせる。
3 活動成果について、自分の身近な範囲での意義を見いだせる。
2 活動成果のおおその意義や意味は考えられるが、あいまいな部分が残っている。
1 活動成果の意義や意味を考えようとしなない。

## 2012年度チャレンジセンター科目 事例紹介と受講生の声

### プロジェクト入門B (担当: 崔一英教授)

#### 【授業テーマ】ウォーキングを題材にした地域調査

写真は、メタセコイアの並木道で歩行データを測定している学生たちの様子です。距離に対する歩行時間、歩数から自身の歩行速度と歩幅を算出します。このデータに基づき、ウォーキングコースを実地調査し、コースの景観や自然環境等の特徴をまとめます。



**受講生の声** 課題が多く、大変だがその分調べることで、自分の知らないことも知ることができ、ためになりました。普段関わらないような他学科の学生と関わることで、コミュニケーション能力が培われた気がします。ここで学んだことは、今後、情報の収集と整理の際に役に立つと考えられます。

### 成し遂げ力入門 (担当: 堀本麻由子講師)

#### 【授業テーマ】ゲストスピーカーからの経験学習を通して、身につけるセルフマネジメント

セルフマネジメントに関わる人間心理と目標設定および振り返り(省察)について学ぶ。セルフマネジメントとは、自分で目標を設定し、スケジュールを立て、モチベーションをうまく維持しながら、設定した目標をふり返りながら成し遂げていくことである。この授業では、人間心理および経験学習方法を活かして自身をマネジメントし、成し遂げていく方法について考える。授業の中では、実際に仕事を通じて、自分の夢、成し遂げていく経験を語っていただいている。

#### ゲストスピーカーと授業内容 **第8回 永谷研一氏(ネット株式会社代表取締役、発明家)48歳**

大学卒業後(第一志望の大学入試に失敗し、挫折感いっぱい学生時代を過ごす)、30歳まで大手コンピューター会社でSEとして働き、その後独立し、ベンチャー企業を設立した。事業内容は、教育関連に関するコンサルティング、研修・セミナー、IT商品の企画・開発・販売教育など多岐にわたり、社会貢献活動として、小学校～大学までの授業方法改善のIT支援も行って

る。講義の中では、少年時代の夢、大学受験失敗、SE時代の仕事への取り組みかた、ベンチャー企業設立、事業を維持することの困難、現在の仕事の状況、社会貢献活動についてなど、これまでの経験をわかりやすく、熱く語り、その後学生からの質疑応答を行った。

#### 学生からのコメント

・夢や目標を成し遂げるためには、それが絶対叶うと信じることと思いますが、自分には自信がありませんでした。永谷さんのお話をきいて今までの自分は間違っていることがわかりました。(3年女子学生)  
・失敗をしたとしてもそれでへこむのではなく、なぜ失敗したのか、どこが悪かったのかなどをしっかりと考えて次は同じ失敗をしないことが大切だと思いました。(3年女子学生)

・「気が合わない人が自分を成長させる」人の好き嫌いは視点が違うだけだと考えることが大切で、受け入れることが大切だということがわかりました。(3年男子学生)  
・仕事に取り組む姿勢(逃げずに一心不乱に目の前の期待に応えていく(仕事の質を高めていく)が大切だということが理解できた。(3年男子)

# チャレンジセンター開講科目

## チャレンジセンター教員の研究活動および成果発表

**堀本**  
**「リーダーの質問力育成方法に関する実践研究：マイケル J.マーコードへの半構造化インタビューによる検討」**  
 ―お茶の水女子大学生涯学習論研究室紀要「生涯学習実践研究」第10号 2012年4月

**尾崎、園田**  
**「ルーブリックを用いた自律的学習の促進―社会的実践力の教育場面における活用例―」**  
 ―東海大学教育研究所研究紀要 第20号 2012年

**園田**  
**「2012年ガイダンスアンケート調査について～科目群と履修目的、学習態度の関係を中心に～」**  
 ―東海大学教育研究所研究資料集 第20号 2012年

**広川、宮地、岡田**  
**「タブレット型コンピュータの教育利用の有効性に関する研究」**  
 ―東海大学教育研究所研究資料集 第20号 2012年

**崔、岡田**  
**「デジタルビデオの制作を通じた学び合い教育の実践」**  
 ―日本情報科教育学会第5回全国大会、P.101-102(2012.6)

**広川、宮地、岡田**  
**「iPadとオンラインストレージを利用したグループ学習における情報共有の試み」**  
 ―H24年度教育改革ICT戦略大会、私情協、A-7、p.112-113、(2012.9)

**岡田、堀本、広川、尾崎、園田、崔、大塚**  
**「iPadを利用したグループワークについて」**  
 ―H24年度教育改革ICT戦略大会、私情協、A-9 p.116-117、(2012.9)

**堀本**  
**「リーダーの質問力育成方法に関する実践研究(その2)-熟達化研究に着目して」**  
 ―日本社会教育学会第59回研究大会自由研究発表、2012年10月

**堀本**  
**「リーダーの質問する力を育成する方法論の構築」**  
 ―平成24年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)

## 【履修者状況一覧】

校舎	授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数	
湘南	集い力Ⅰ ※集い力(入門)	園田 由紀子・田中 彰吾	6	549	
	集い力Ⅱ ※集い力(演習A)	尾崎 由佳	6	269	
	集い力Ⅲ ※集い力(演習B)	岡田 工・崔 一英	10	194	
	挑み力Ⅰ ※挑み力(入門)	園田 由紀子	4	304	
	挑み力Ⅱ ※挑み力(演習A)	堀本 麻由子	2	81	
	挑み力Ⅲ ※挑み力(演習B)	園田 由紀子・大熊 亨	4	79	
	成し遂げ力Ⅰ ※成し遂げ力(入門)	尾崎 由佳・堀本 麻由子 他	6	549	
	成し遂げ力Ⅱ ※成し遂げ力(演習A)	堀本 麻由子 他	2	60	
	成し遂げ力Ⅲ ※成し遂げ力(演習B)	尾崎 由佳・広川 美津雄 他	6	147	
	プロジェクト入門Ⅰ ※プロジェクト入門A	園田 由紀子・岡田 工	7	216	
	プロジェクト入門Ⅱ ※プロジェクト入門B	崔 一英・園田 由紀子 他	8	174	
	プロジェクト入門C	岡田 工 他	2	52	
	プロジェクト実践A	岩田 祐子・岡田 工	2	16	
	プロジェクト実践B	岡田 工・岩田 祐子	2	23	
	プロジェクト実践C	木村 英樹	1	4	
	プロジェクト実践D	木村 英樹	1	13	
	合計			69	2730

札幌	時事英語演習Ⅰ	ディーン エリック スティーブン	1	17
高輪	集い力Ⅱ ※集い力(演習A)	崔 一英	2	36
	集い力Ⅲ ※集い力(演習B)	崔 一英	1	32
清水	プロジェクト入門Ⅱ ※プロジェクト入門B	福崎 稔	1	9
	集い力Ⅰ ※集い力(入門)	園田 由紀子	1	27
沼津	挑み力Ⅲ ※挑み力(演習B)	園田 由紀子	1	18
	プロジェクト入門B	小林 孝広 他	1	11
合計	成し遂げ力Ⅲ	園田 由紀子	1	5
合計			9	155

## 〈ジャーナリズム実践教育コース〉 ※は2010年度以降入学者対象の科目

校舎	授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
湘南	ジャーナリズム入門Ⅰ ※時事問題研究A	山口 勉・岩田 伊津樹	2	68
	※時事問題研究B	岩田 伊津樹	1	5
	ジャーナリズム入門Ⅱ ※論文作法A	山口 勉・岩田 伊津樹	2	31
	※論文作法B	山口 勉	1	2
	ジャーナリズム演習Ⅰ ※ジャーナリズム演習A	山口 勉・岩田 伊津樹	2	12
	ジャーナリズム演習Ⅱ ※ジャーナリズム演習B	山口 勉・岩田 伊津樹	1	15
	時事英語演習Ⅰ ※時事英語演習A	山口 勉	1	17
	時事英語演習Ⅱ ※時事英語演習B	山口 勉	1	8
	国際ジャーナリズムⅠ ※国際ジャーナリズムA	山口 勉	1	120
	国際ジャーナリズムⅡ ※国際ジャーナリズムB	山口 勉	1	86
	ジャーナリズム・ゼミナール	山口 勉	1	1
	ジャーナリズム・ゼミナールA	山口 勉・岩田 伊津樹	2	11
	ジャーナリズム・ゼミナールB	山口 勉・岩田 伊津樹	2	11
	ジャーナリズム史	飯塚 浩一	1	219
	メディア概論	水島 久光	1	212
	フォト・ジャーナリズム ※報道写真演習	池田 正一	1	20
	マスコミ法制 ※マスコミ倫理	岩田 伊津樹	2	353
	ウェブ・ジャーナリズム	岡本 勉	1	105
	経済ジャーナリズム	丸山 康之	1	120
	政治ジャーナリズム	鬼頭 誠	1	109
出版ジャーナリズム	間宮 淳	1	95	
環境ジャーナリズム	岩田 伊津樹	3	379	
スポーツ・ジャーナリズム	川島 健司 他	1	166	
科学ジャーナリズム	笹沢 教一 他	1	115	
医療・福祉ジャーナリズム	田中 秀一 他	1	57	
文化ジャーナリズム	長井 好弘 他	1	137	
合計			34	2474

# 「ジャーナリズム副専攻」 「ジャーナリズム実践教育特定プログラム」

山口 勉 教授

## 総論

3年生以下が「特定プログラム」、4年生が旧カリキュラムという移行期の最後の年度の中で、さまざまな課題も見えてきた1年間でした。読売新聞社などに講師の派遣を委託している一般科目では、総じて受講者が増え、秋に開講した「スポーツ・ジャーナリズム」では受講希望者が500人を超え、抽選で3分の2以上に受講をあきらめてもらいました。

一方受講者を絞り込む「特専科目」は概して受講希望者が減少しました。多人数の授業では受講者個々への配慮が難しくなるのに対し、少人数授業では教える者、教わる者のなれ合いが生じかねない

からです。この少人数化傾向は「ジャーナリズム実践教育」というプログラムの存在自体が、学生の間で広く知られていないことが原因と思われる。

また主に3年生での「特専科目」の受講を柱にした「特定プログラム」の構造自体を改革していく時期にきているのかもしれない。

## ゼミナール・ジャーナリズム

2011年度秋の「論文作法」の受講者がほぼそのまま春秋のゼミメンバーになりました。ゼミでは3つの課題を進めました。1つは学外実習で、春セメ前に宮城県石巻市を、また秋セメ前には岩手県宮古市、釜石市の被災地を訪れて取材を行い、それぞれその成果は月刊誌中央公論に掲載しました。

また年間テーマとして、取材相手の声をそのまま文章化して記録する「オーラル・ヒストリー」を企画し、テーマを「いのち」としてそれぞれ

## 国際ジャーナリズム

例年通り春は「アメリカ」を、秋は「アメリカ、中国、中東」を講じました。春セメでは、原爆の製造と原発の問題から始めましたが、原発事故の余波で受講者の関心は高く、来セメ以降このテーマの拡充を計画しています。アメリカ編では、世界の大きな枠組み、安全保障、国連、民主主義の基本的理解を目指しました。

秋セメでは尖閣問題による日中関係の悪化を背景に、中国に関する関心の高まりを感じましたが、中国が基本的に社会主義の国で

## 時事英語演習

英語力の向上は時代の喫緊の課題ですが、授業では主にニュース英語の読解力を高めることを目指しました。春セメマスターでの簡単な事件、事故の英文ニュースの読解から始め、秋にはかなり難解な英文雑誌の長文の論評に至るまで、多くの英文に接することで、英語をおそれない、挑戦する気持ちを養成しようと考えました。

特に今年度は従来からの授業ごとの課題とその読解に加え、春秋とも学期を通じて1回に3000語ほどの長文の英文和訳を3回宿

あり、日本とその仕組みが大きくことなることを理解させることが難題でした。またアメリカでは大統領選を中心に、中東ではイスラム原理主義と民主化を中心に講じました。学期末に至ってアルジェリアでの日本企業に対するテロ事件が発生したことで中東が日本人にとって離れた世界ではないことを感じてもらったのではないかと思います。

題で出しました。特に秋にはエコノミスト誌の追悼欄の1ページ、タイム誌の日本の「右傾化」に関する論考2ページなど、かなりの分量を翻訳させました。

またさらに英語を学びたい受講生のために、授業外でも週1回の補習授業、夏、春休暇では書籍を指定して読ませ、要約を作成させて提出させ、やる気のある学生の実力向上をはかりました。

# チャレンジセンター開講科目

## 環境ジャーナリズム

毎 Semester 多人数クラスになっているので、秋 Semester では2クラス開講したものの、受講者の合計は277人に上りました。残念ながら、このすべてがジャーナリズムや環境問題に関心があって受講している訳ではないことです。学生の意欲を増すため出席、中間試験、期末試験、それに授業中のノート、発表の各項目を評点化して成績を付けました。

ジャーナリズム実践教育という性質上、ジャーナリズムのあり方論

とともに実際に現場で必要となる取材・報道のスキルを身に付けることも重要だと考えています。気になるのは、学生のほとんどがノートを取らないことです。取材現場でメモを取らない記者がいますが、こうした記者の原稿は信用できません。この取材メモにあたるのがノートだと説明し、ミニツペーパーを配布して出席をチェックすると同時に裏の白紙部分にノートを取らせ、ちゃんと取ってれば毎回加点することにしました。きちんと取れている学生は、試験もよくできます。

岩田 伊津樹 教授

## 時事問題研究 A ジャーナリズム入門

この科目は、春にA、秋にBを開講しており、同じ受講者が両クラスを受けることもあります。今年から両クラスの性格付けをはっきりさせるためAではジャーナリズム入門講座の内容を冒頭に入れ、その後、時事問題の各テーマについて学生の発表を入れながら講義形式で進めるように変更しました。Aの受講を前提としたBでは、その時々のでニュースを選択した上で、問題点をさらに細分化して各学生がそれぞれの項目を調べ報告、議論する形式にしました。これは、クラス人数

が5人とゼミ並だったことが大きな理由ですが、放っておくと議論が進まないで各人が毎回意見を述べるようにしました。

取り上げたテーマとしては、陸山会事件での小沢一郎氏への無罪判決、地方主権改革と大阪都構想、普天間基地移転と日米同盟、原発再稼働と日本のエネルギー問題、社会保障と税の一体改革、尖閣問題と国連海洋法条約、危機的状況の日本財政など多様な分野にわたりました。

## マスコミ倫理

これまで秋に1クラス開講してきましたが、受講者が多いので2クラス開講にしました。しかし受講希望者が計430人もおり、やむを得ず履修制限しました。それでも両クラスで350人を超えました。このため2013年度は、春学期にも1クラス開講することにしました。

内容は、記者として取材・報道の現場で直面する法的、倫理的諸問題をどう考え、どう対処してゆかが中心です。報道記者の活動は、国民の知る権利に奉仕する存在として表現の自由を保障した憲法

21条に基づくとされるため最終的には司法の判断にゆだねる場合が多く生じます。そのため過去の司法判断がどうだったのかを基礎として知る必要があります。

一方、最近では、メディア・スクラムなどのように報道倫理が問題になるケースが多発しています。実践教育として、できるだけ現場取材での体験談を交えながら具体的ケースに即して授業を展開するようになっています

山口 勉 教授

岩田 伊津樹 教授

## ジャーナリズム講師一覧

春 Semester 講師	秋 Semester 講師
<b>【ウェブジャーナリズム】</b> 岡本勉 テレビ新潟監査役 稲沢裕子 読売新聞社調査研究本部主任研究員 高津康文 読売新聞社 メディア戦略局付部長 渡辺勝敏 読売新聞社 メディア戦略局 小川祐二郎 読売新聞社 メディア戦略局 松井正 読売新聞社 メディア戦略局 神宮聖 読売新聞社 メディア戦略局 中村文陽 読売新聞社 メディア戦略局 渡辺晋 読売新聞社 メディア推進部	<b>【文化ジャーナリズム】</b> 長井好弘 読売新聞社編集委員 塩崎淳一郎 読売新聞社 文化部 祐成秀樹 読売新聞社 文化部 待田晋哉 読売新聞社 文化部 辻本芳孝 読売新聞社 文化部 田中誠 読売新聞社 文化部  <b>【スポーツ・ジャーナリズム】</b> 川島健司 読売新聞社運動部長 結城和香子 読売新聞社編集委員 塩見要次郎 読売新聞社 五輪担当・サッカー推進事務局長 谷祐一 読売新聞社 五輪担当・サッカー推進事務局 小石川弘幸 読売新聞社 運動部 松本浩行 読売新聞社 運動部 三宅宏 読売新聞社 運動部 軍地哲雄 読売新聞社 運動部 三木修司 読売新聞社 運動部 太田朋男 読売新聞社 運動部 深井千弘 読売新聞社 運動部 三橋信 読売新聞社運動部 迫田泰敏 元読売新聞社運動部長  <b>【科学ジャーナリズム】</b> 笹沢教一 読売新聞社科学部 山田哲朗 読売新聞社科学部 滝田恭子 読売新聞社科学部 安田幸一 読売新聞社科学部  <b>【医療・福祉ジャーナリズム】</b> 田中秀一 読売新聞社論説委員 阿部文彦 読売新聞社 社会保障部長 本田麻由美 読売新聞社 社会保障部 猪熊律子 読売新聞社 社会保障部 藤田勝 読売新聞社 医療情報部 田村良彦 読売新聞社 医療情報部 加納昭彦 読売新聞社 医療情報部 岩永直子 読売新聞社 医療情報部 安田武晴 読売新聞社 医療情報部
<b>【政治ジャーナリズム】</b> 鬼頭誠 読売新聞社調査研究本部主任研究員 笹森春樹 読売新聞社調査研究本部主任研究員 笹島雅彦 読売新聞社調査研究本部主任研究員 青山彰久 読売新聞社 編集委員 窪田知久 読売新聞社 世論調査部 飯塚恵子 読売新聞社 政治部	
<b>【経済ジャーナリズム】</b> 丸山康之 読売新聞社調査研究本部主任研究員	
<b>【出版ジャーナリズム】</b> 間宮淳 中央公論新社 編集委員 松室徹 中央公論新社 製作本部長 松井敏宏 中央公論新社 編集総務部長・デジタル推進部長 石田汗太 中央公論新社 文芸局	
<b>【フォトジャーナリズム／報道写真演習】</b> 池田正一 読売新聞社編集委員	

## COLUMN

2012年は尖閣問題による日中関係の悪化やその後の日本の政権交代へと多事多難の1年でした。心ある学生の間では、そうした日本や世界の状況に対する漠然とした危機感が深まっているように感じる。

その危機感は直接的には就職への姿勢につながっている。状況をかなり深刻に考え、特に3年生は秋学期に入ると、どこか勉強が上の空になる。切迫感がゆったりと何かを考えたり、勉強したりする気持ちを脇に押しやるのだろう。

こうした状況に拍車をかけているのが、スマホだ。授業中の私語は少なくなかった。実は机の下でスマホでおしゃべりしているのだ。「情報」は一瞬にして手に入るが、その情報のニュアンスは伝わらない。じっくり考える思考力や批判的視点は育たない。

その点からも、来年度はどうやれば学生が考えるくせをつけるか、批判力を持つかを課題に授業を進めていきたいと思う。

現代の若者たちはコミュニケーション力が足りないという話をよく耳にしますが、ジャーナリストをを目指す場合、これは必須の条件ともいえるので困りものです。日常的に学生を見ていると、親しい仲間同士はよく話すが、いったん皆の前で意見を発表するとか知らない人物に聞くととなると言葉が出てこないようです。昔のように年寄りや大人、あるいは同級生から赤ん坊までが一体となって暮らす地域共同体の経験が乏しいからではないかと思えます。

そこで時事的要素も加味して福島第1原発から約60キロの地点にある兼業農家を定期的に訪ねて取材する定点観測取材をスタートさせました。読売新聞の名連載といわれる「日本の土」になったものです。原発事故による風評被害や昨年夏の干ばつなどで果樹を中心としたこの地方の農家は大打撃を受けています。ジャーナリズムゼミの卒業生の実家ですが、おじいちゃん、おばあちゃん世代からご両親、その子ども世代、さらに孫と大家族です。繰り返し取材することでコミュニケーションの力が上がればと思っています。

## 受講生の声

佐藤 晴観 (文学部広報メディア学科3年)

2年生からジャーナリズム実践教育プログラムの授業を履修し始め、3年生ではゼミに参加しました。一般科目では非常に勉強になる科目もそうでもない科目もありましたが、今何よりも大切にしたいと思うのはゼミの仲間たちです。2度の東北被災地旅行などを通して、それぞれに個性的な仲間たちを理解し、あるいは自分との違いを知り、ジャーナリズムの勉強を通して絆を深めたと思います。



高橋 紗祐理 (文学部広報メディア学科3年)

元々このコースがあったので東海大に入りました。1年から受講を始め、4年の春に報道写真演習を取ろうと思いますが、それが終わると特定プログラムの40単位が完了です。3年生からはゼミにも参加、これまで裁判の傍聴や陸山会事件の世田谷の土地、福島の除染現場などに取材に行きました。やはり南相馬の現場は、見ておく必要があると思いました。伊勢原のツキノワグマ被害の地区に行って地域の人たちに聞き込み取材したのも面白い経験でした。知らない人に話しかけるのは、初め抵抗がありましたが、意外にみな快く話してくれてやってみて良かったと思います。陸山会事件の取材では土地の登記簿を取りましたが、「裏を取る」ということはこういうことかと改めて取材の大変さを実感しました。



▲写真は、福島の実験園で放射線量を計測する学生(2012年8月)

## 2012年度 第1回FD研究会

## 2012年度 春 semester 履修動向調査結果 一履修傾向や学生動向について

日時:7月9日(月)17:00～ 場所:東海大学湘南校舎 17号館2階第2研究室 司会:岩田伊津樹教授

## 1. 報告1 (園田由紀子講師)

多人数クラスをどうするかは大きな課題である。履修状況を見ると、曜日、時限によって学部学科の学生ごとに大きな変化がある。また、学生たちがどんな動機で履修科目を選ぶのかについて調査結果を見ると、センター科目全体では半数以上が「時間が空いていた」がトップ、続いて「内容が面白そう」と回答しているが、ジャーナリズムだけは6割近くが「面白そう」を挙げ内容で選んでいるのがわかった。

多人数の場合の履修制限で、課題への回答によって選抜する場合は、その科目への履修意欲を見ている。意欲の低い学生が入ると、グループワークができなためだ。ただし、卒業がかかっている4年生は優先履修させるという前提はある。

とかくチャレンジセンター科目は、学生たちの間に「楽勝」科目(単位が取りやすい)というイメージがあるようで、「この科目は楽勝ではない」というだけで帰る学生もいる。特に「単位を落とす人が多い」というと受けない学生が多い。また、「履修制限ありますか」と聞いて来る学生の真意は、「友達と一緒に受けられますか」ということ。一方、授業の効果を学生たちに実感させるには、初めに「ルーブリック(5段階の教育目標)」を提出させ、それを終了時にチェックさせるといだろう。

## 2. 報告2 (山口勉教授)

ジャーナリズム実践教育特定プログラムというコースによって授業を展開している。こうしたコースをつくった背景には、報道界に東海大出身者が少ないということがある。

このプログラムでは、コアになる学生はゼミで学び、その前の段階として演習を設定。その他、分野別科目として政治、出版、写真などの各科目を開講しており、読売新聞編集局の各部、中央公論から講師を招聘している。今年の春 semester で特に受講生が多かったのは出版ジャーナリズム(金-5)だった。昨年度までは40人前後だったが、今年は約100人が来た。また、政治、ウェブ、経済の各ジャーナリズム科目も履修制限を実施した。

私の担当している国際ジャーナリズムの例をいうと、授業態度はまじめで静かではあるが、最終的にゼミまで受講してジャーナリストを目指そうという当プログラムにとってのコアの学生が来ないのが残念だ。履修制限の実施がいいのか悪いのかは、何とも言えない。

## 3. 結論 (園田由紀子講師)

入門系の科目は、履修制限を実施せざるを得ない。それはグループワークが出来ないからだ。また、今後の多人数クラス対策としては、「楽勝」科目を少なくする必要があるだろう。だが、モチベーションの低い学生を機械的に排除してよいのかとなると今後の課題だ。排除の前に学生の意識改革が必要だろう。



山口勉教授



園田由紀子講師



## 2012年度 第2回FD研究会

情報教育センター・外国語教育センター・チャレンジセンター 3センター合同FD研究会  
テーマ:「教室のICT化による教育効果と課題」

日時:1月12日 13:30～16:00 場所:東海大学湘南校舎 14号館102教室 司会:園田由紀子講師

## 1. 挨拶 (高橋隆男先生、蟹江秀明先生)

高橋隆男教授(情報教育センター所長)

今回初めて3センター(情報教育センター、チャレンジセンター、外国語教育センター)で合同のFD研究会を開催することができました。文科省や中教審で教育の情報化が強く言われてきています。補助金も教育の情報化に対して出していく傾向になっている。また、学士力の保証も求められてきている中で、コンピュータ教室以外の一般教室の情報環境の整備が求められています。その目的として中教審

答申の中に「求められる学士課程教育の質的転換(双方向授業や教室外学習プログラムなどによる)」を実現するには、教室の情報化が必要となってきます。日本はこの分野に関して遅れていますが、これから積極的に導入していく必要があります。今日は長時間にわたりますが、皆さんと一緒に教室のICT化とその課題について検討させて頂ければと思います。

蟹江秀明教授(常務理事 法人情報化推進本部部長)

情報化推進本部は3年前からあります。コンピュータによる教育の導入は国公私立の大学の中で東海大学が最初で、まさに先駆けでした。つねに情報化に関しては先頭を走ってきました。東海大学の情報教育の地位はまだまだ上位にいると考えています。情報化推進本部の2つの柱は、学園における情報環境の均一化を実現、もう一つが小中高大のICTにおける効率化の実現です。私はコンピュータの技術が得意でないからこそ、教育を語るができます。付属高輪高校や付属浦安高校ではICTを先進的に導入した教育を実施しています。これらの学生たちが東海大学に入学してきます。他の子どもたちも小学生からコンピュータに触れてきています。そのような時代において、教育とICTをどう結びつけるかは非常に重要です。検討の開始は決して早過ぎはしません。他の大学も積極的に進めております。限られた時間ではありますが、是非活発な議論をお願いしたいと思います。

## 2. 第1部 最新のICT機器について

最新ICT機器を紹介するため、メーカー担当者によるデモンストレーション、ビデオによる紹介が行われました。

## ①【紹介製品】X-info Table 【企業名】NEC

横型 52インチのマルチタッチディスプレイについて、実物を使ったデモンストレーションが行われた。製品名のX-infoとは、情報の交錯を意味しており、ネットワークでつないだ携帯やiPAD、パソコンなどと容易に情報を共有できX-infoの画面上に表示、共有、操作ができる様子を、一部デモンストレーションを含めながら説明がありました。巨大なタッチパネル画面では、同時に最大10か所の接点を認識し、同時に複数人で操作ができ、ワンタッチでカード状の画面何枚でも画面上に表示が可能のため、会議やブレインストーミングを行う際に活用できるという説明がありました。さらに、X-info上の画面を、プロジェクターや外部モニターなどに自由に表示でき、動きのある授業などでの活用も可能であると説明されました。

## 【質問】

Q. 会議やミーティングなどを画面上で共有しながらできるのは、とても有効だと思うが、会議や作業、後日続きから再開することはできるか

A. ワードやパワーポイントなど、ソフトの上書きは可能だが、複数のカードを使い、自由に書き込んだ状態は、画像としては保存可能だが、同じ状態から作業を継続することはできない

## ②【紹介製品】ビジネスプロジェクター各種 【企業名】EPSON

EPSONからは、最新のプロジェクターをいくつか紹介頂きました。特徴としては、様々な照明環境やスクリーンの有無、スクリーンとの距離などに対応できるプロジェクターや壁掛け可能なもの、電子黒板として活用できるものなどが紹介されました。中でも、関心が高かったのは、電子黒板型のプロジェクターで、赤外線認識専用の電子ペンを使って、ホワイトボードとして利用出来るだけでなく、パソコンなどからの情報を表示させた上で、電子ペンで加筆の様子がデモンストレーションされました。また、プロジェクターをネットワークに接続することで、ネットワーク上の複数のパソコン画面を同時に表示したり、ネットワークプリンターを使って、画面をプリントアウトすることが可能であることが説明されました。さらに、複数台のプロジェクターを利用する環境では、すべてのプロジェクターをネットワークでつなぎ、コンピュータ上から管理することが可能で、故障の確認だけでなく、同じ画面を同時に表示できることから、地震など非常時の際に、避難の指示や連絡などを、瞬時に行うことができることも説明され、教育現場での活用性が強調されました。

③【ビデオによる製品紹介】【製品名】BeeDance 【企業名】SCSK  
担当者の都合により、メーカーによるデモンストレーションや説明は行われませんが、企業HP上の説明ビデオを上映し、製品の説明を行った。BeeDanceは、iPadやスマートフォンなどの携帯型アプリケーション端末と連携し、教員の端末で作成した、択一式、記述式の問題を、学生の端末に配信すること、さらにその結果の集計も可能に行えるシステムです。イメージ情報もやりとりできるので、手書きで書き込んだものも表示でき、電子黒板やプロジェクターに投影も可能となっていました。サーバを構築し、そこにデータを保存することで、ネットワークに接続した携帯端末だけでなく、パソコンや電子黒板などと情報を共有することができるシステムでした。教育現場向けに開発されたシステムのため、アクティブラーニングに必要なクリッカーとしての活用など、具体的な利用方法がわかりやすく説明されました。

## 【ブースによる個別説明】

実機を使った個別説明の時間を設けた。NEC、EPSONそれぞれに多数の教職員が集まり、実際に機器に触れながら、質問や担当者の説明を受けた。自分が担当する実際の授業の内容に合せ、活用できるかなど具体的な質問をする教員が多く、関心の高さが目立った。

## 3. 第2部 パネルディスカッション

パネリスト: 岡田 工 (チャレンジセンター)

日向寺 祥子 (情報教育センター)

Mark Shrobsree (外国語教育センター 第1類)

結城 健太郎 (外国語教育センター 第2類)

コーディネーター: 菅家 知洋 (外国語教育センター)

パネルディスカッションでは「ICT機器活用による教育効果と定量評価の可能性」というテーマで、4人のパネリストの先生方が発表を行い、その後討論と質疑等が行われました。岡田先生はグループワーク型授業におけるiPadの有利な点をあげ、その活用事例と効果について発表しました。日向寺先生は遠隔授業、e-learning、授業支援システム、X-info TableといったICT機器を取り入れた様々な取り組みと評価方法について発表しました。Shrobsree先生は英語のみを使った授業における困難な点を事例とともにあげ、その解決としてプロジェクター、OHC(書画カメラ)、スピーカーなどを用いた音声・映像の情報伝達能力の優位性を発表しました。結城先生は外国語教育センターにおけるICT設備の現状に触れるとともに、第二外国語教育におけるICT機器の利用と定量的評価について発表しました。発表後の討論・質疑では、ICT機器利用のさらなる利点、利用における具体的な課題と留意点、現状の教室設備の不十分な点、また定量的評価の難しい点やその必要性などについて話し合いが行われました。



## 第1回ミニセミナー「2011年度チャレンジセンター研究報告」 「2012年度チャレンジセンター研究計画発表」

日時:5月28日(月)11:35 ~ 12:10 場所:東海大学湘南校舎 8号館3階プロジェクト会議室 司会:崔 一英 教授

### 【第1部】 2011年度チャレンジセンター研究報告

#### 2011年度学部等補助金助成研究「情報端末を活用したプロジェクト型授業内容並びに評価に関する研究」

岡田工、崔一英、園田由紀子、尾崎由佳、堀本麻由子

第1部では、2011年度チャレンジセンター研究報告として、2011年度学部等補助金の助成を受けて行われた「情報端末を活用したプロジェクト型授業内容並びに評価に関する研究」について、研究代表者であるチャレンジセンター岡田工教授から、研究概要、研究経過、研究成果の報告があった。

チャレンジセンター科目では、多くのグループワークや協働作業を通じた体験学習が多く含まれる。それらの成果発表としてグループでのプレゼンテーション(発表)が多く行われるが、グループでの討議や活動をする上では、一般教室(移動機)が効果的である反面、成果発表する上では、パワーポイントなどパソコンを使って作成するほうが、効率的かつ、質の高い発表が可能となっている。しかし、一般教室とパソコン教室を相互に行き来しながら授業を行うことは難しく、また、コンピュータを使う作業の場合、担当となった学生一人が大きな負担を負う場合が多く、チームワークという観点からも問題が見られる。そこで、この研究では、これらのグループワークによる協働作業を維持しながら、効果的な発表準備、発表を行うためのiPadなどの情報端末を用いたプロジェクト型の授業の内容、評価について研究をしている。2011年度、iPadを7台、管理用PCを1台購入し、4~5人のグループで1台iPadを使い、情報検索、プレゼン資料の作成を行った。実施した授業は、岡田先生が担当する挑み力(演習B)、プロジェクト入門A、堀本先生が担当する成し遂げ力(演習A)であった。

授業内、iPadのみでプレゼン資料を作るように指導を行った成し遂げ力(演習A)では、「続きを家でやりたい」という学生に対する対応が難しかったことが報告された。また、別の授業の事例では、パソコン、iPadのどちらかでプレゼン資料の準備をするようにと指示をしたところ、より趣向を凝らしたものを作りたいという学生は、パソコンを使うため、それらの情報をiPad上で用いることが難しかった事例などが報告された。

しかし、双方の授業ともに、通常のパソコン教室でのグループ作業とは異なり、グループみんなが覗き込み、協力して作業を行う上で、iPadは有効であったという報告があった。今後の課題としては、無線LANへのアクセスが難しいなど、インフラ面での問題に加え、現在の台数では、2~30人規模の授業にしか対応できず、今後台数を増やしてより大きな演習科目での活用を検討したいと課題も示された。また、iPadで作成したデータの保管や共有において、さらなる検討が必要なども示唆され、継続的な取り組みとして説明があった。

### 質疑応答

Q1. 複数の先生で使われているiPadはどのように管理されているのか。  
A. 岡田先生: 基本的には、私が設定、充電も含め、管理している。基本的にiPad同士のデータのやり取りが制限され、使えるアプリにも限りがあるため、一人で一元管理するほうが効率がよいが、負担も大きい。

Q2. データのやり取りについて、アプリのデータをやり取りするのではなく、Googleシートのように、オンライン上に設置されたソフトを使う方法は可能なのか。  
A. 岡田先生: そういう方法も検討できる。ただし、まだアプリなどの開発も進んでおり、windowsとの互換性の高いものも作られる可能性があり、様々な方法を検討しながら、もっとも効率的、効果的な作業ができるものを検討していく予定である。

### 【第2部】 2012年度チャレンジセンター研究計画発表

第2部では、2012年度チャレンジセンターが独自に取り組む研究計画として、3件の計画が発表されました。これらの計画は、学部等補助金の助成を申請されたもので、今回の発表も採択審査の対象とされるものです。

#### 発表1「情報端末を活用したプロジェクト型授業内容並びに評価に関する研究」(継続)

研究者: 岡田工、崔一英、園田由紀子、尾崎由佳、堀本麻由子

2011年度に引き続き、iPadを中心とした情報端末を使った授業開発について、新たに、スキャナを用いて紙ベースの教材を混在しながら、iPadを使った取り組みや12~308コンピュータ室に導入されたネットワーク環境下での試み、10台以上のiPadを用いた授業の取り組み、授業支援システムを利用した評価方法の開発などを目的とした研究計画が発表された。

#### 発表2「定点観測」手法を使った実践的取材ノウハウ教育の開発」

研究者: 岩田伊津樹

ジャーナリズムの現場では、OJT(オン・サ・ジョブ・トレーニング)型の実践教育がおこなわれているが、大学教育として実践することは難しい。そこで、気象観測に用いられる定点観測の方法を取材現場に応用した定点観測取材の手法を用いて、学生の実践的な教育を行うことが有効である。今回の取り組みでは、福島県の農家に焦点を当て、東日本大震災、原発事故により一変した生活を、その地域に暮らす1農家を中心に継続的に取材をしていく。これにより、本来、新聞社等入社後にしか体験できないOJTの一部教育的に実施することができる。この取り組みに対し、懸念される放射線の問題等は、3月15日の予備取材時に計測した放射線量によると、人体に影響を与えるレベルではなく、学生を連れて、短期間取材活動する上での安全は確保できると説明があった。

#### 発表3「ルーブリック活用による目標設定・評価に関する研究」

研究者: 園田由紀子、尾崎由佳

これまでも、チャレンジセンター科目の一部では、ルーブリックを用いた目標設定・学生による自己評価の検討を行ってきた。授業時に用いるルーブリックの適正な段階やルーブリックの記入例からみた履修学生像分析、教育目標としてのルーブリックの効果など、様々な視点で研究が行われてきた。今年度より、複数の教員により、多くの科目でルーブリックを使った事前事後測定が開始され、科目ごとの比較や年度変化等の調査が可能になったことを受け、総合的なルーブリックに関する目標設定・評価についての研究を実施することになった。

調査は、授業開始時、終了時に行うルーブリックによる事前・事後評価の結果に加え、履修学生に向けアンケート調査を実施し、その内容から、ルーブリックによる効果・影響を検討する。



## 第2回ミニセミナー「プロジェクト活動に役立つグラフィックデザインの原則」

日時:12月5日(水)17:00 ~ 場所:東海大学湘南校舎 講師:広川美津雄教授(教育研究所:サイエンスコミュニケーターアドバイザー) 司会:崔 一英 教授

### 講演概要

講師は、グラフィックデザインの基礎から、デザイナーとして印刷会社と折衝できるレベルまでの技術を学ぶチャレンジセンター科目成し遂げ力演習を担当され、チャレンジセンタープロジェクト サイエンスコミュニケーターアドバイザーでもある教育研究所 広川美津雄教授である。広川先生は、企業でのデザイナーとしての豊富な経験をもとに、デザインするとは何かという位置づけから、デザイナーとしての基本までをわかりやすく説明された。今回のミニセミナーは、通常の一般教職員に向けたものとしてではなく、より実践的な内容であることから、プロジェクト学生にも開放し、参加を呼び掛けた。結果、多数のプロジェクト学生、関係教職員の参加があり、100名を超え大盛況となった。

プロジェクト活動において、広報は特に重要な活動である。広報をしなければ、活動を知ってもらうことができない、イベントを開催してもお客が集まらない、どのような活動においても、広報は必要不可欠なものである。しかし、パンフレット、ポスターを作ったのに集客できない、チラシをたくさん配布したのにメンバーが集まらないなどのプロジェクト活動の中で陥りがちな様々な問題の多くに、広報が関係している。だからこそ、どのような広報を行うかは重要であり、広報活動に不可欠なグラフィックデザインを学ぶ意義は大きい。広報活動は、他者とのコミュニケーションであり、自己表現である芸術活動とは異なる。また、デザインとは、広報のための作業ではなく、広報はプロジェクト活動の一環であり、活動と広報、デザインは一貫したものであると考えねばならない。その中で、広報活動と広告の位置づけを丁寧に説明された。作ることが目的ではなく、メッセージが、届く、伝わる、動かすための活動がデザインである。広報は人を対象として行う事から、デザインの基礎は、コミュニケーションの構造や人の認知の過程を踏まえ、見やすい、読みやすい、わかりやすい、きれいというデリバリー技術をとめない、人を感動させるコンテンツが求められていることが具体的な例を挙げながら説明された。さらに、チラシ、ポスター等で活用できるデザイン原則である4つの原則(グループ化、整列、強調、一貫性)という視点から具体的に説明された。

写真の上に本文を書き込む、文字を左右対称に配置する、ロゴの普遍性、色調、表現の統一など、デザインに置ける原則は、学生が陥りやすい間違いを指摘しており、すぐ実践できるような内容であった。デザインという「感覚」に大きく影響する作業は、社会や人のニーズ、価値観を柔軟に汲み取りながら行われる事が望ましく、経験的に学習すべき部分も多いが、ポイントを踏まえる事で、誰でもデザイン力を身につけられることがわかりやすくまとめられていた。

また、原則以外に、学生が好んで使うイラストの取り扱いの難しさや広報に活かせる素材収集の方法など、コンテンツの作成にかかる準備の方法についても説明があり、さらに、学生が中々利用できない印刷会社の有効な活用方法、印刷会社との調整や、データ作成上の注意点など、実際の制作活動の流れに沿って注意点が説明された。

最後に、名刺のデザインという具体的な例をもとに、情報をデザインしていくプロセスを、原則の手順に従い、確認して、講演は終了した。

実際に、ポスター、チラシなどの広報制作物を作成しなければならないプロジェクト学生だけでなく、それらを支援しなければならないコーディネーター、アドバイザーにとって非常に有益な話であった。

### 質疑応答

Q1. デザインにおける色や色彩の有効な使い方は?  
A. カラーコーディネートという分野で詳しく説明されている。色を効果的に活用することで良い作品を作ることができるので、多くの書籍などから学んで活用して欲しい。

Q2. ポスター等の内容について、ロゴと内容のバランスについて、伝えるべきなのは、ロゴを重視するのか、内容を重視するのか迷ってしまうのですが。  
A. 見ている人が知りたい内容を重視するべきで、内容を伝えたいのであれば、内容が目立つように、プロジェクト名や会社名を知ってもらいたいならロゴマークを目立つようにすべき。

Q3. 二流と一流の違い 皆既日食のポスターを例に違いを知りたい。  
A. 余白の使い方、目立たせるための空間、スペースの取り方が、一流の使い方であるイラスト、写真のバランスやスペースの使い方にテクニックがみられる。つつい限られたスペースに情報を詰め込み過ぎてしまうが、一流といわれる作品では、余白など空間全体が効果的に使われている場合が多い。

Q4. ジャンプ率とはどういうことですか?  
A. 文字の大きさ、写真の大きさなど構成上の割合、比率のことを示す。通常は文字のジャンプ率をさす。





ライトパワープロジェクト



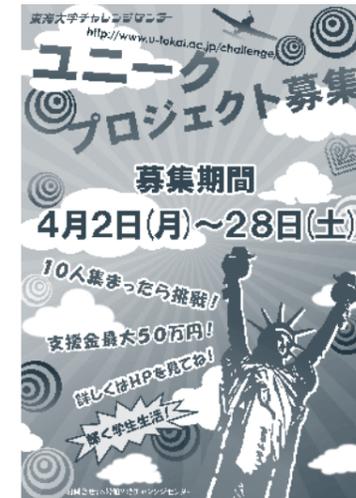
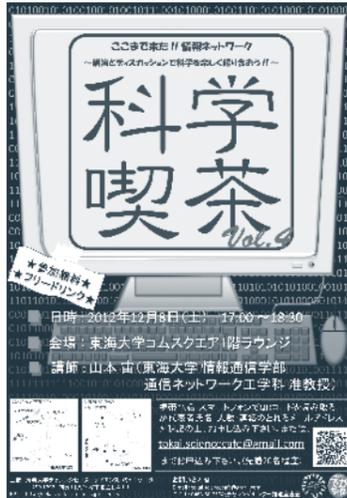
Music Art Project



スポーツ社会貢献プロジェクト

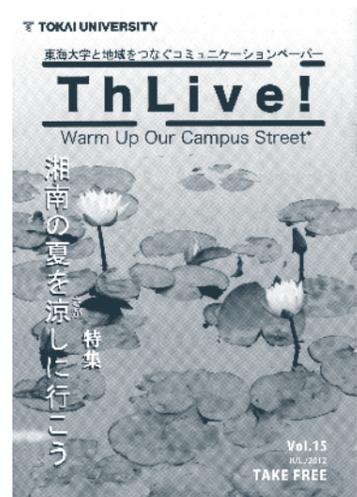


チャレンジセンター

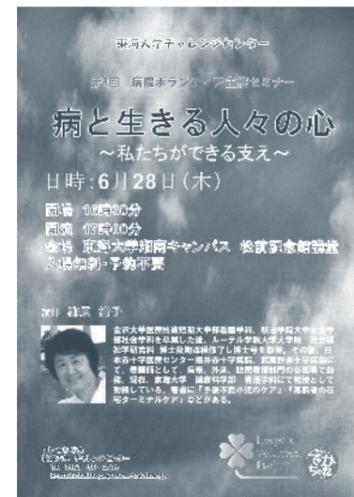


サイエンスコミュニケーター

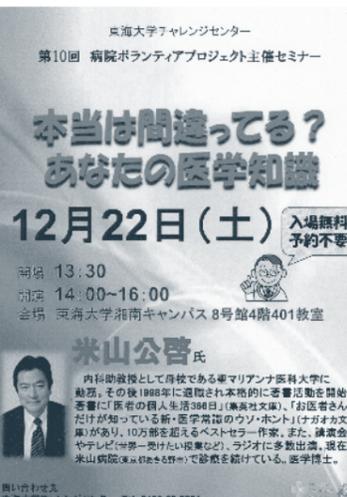
チャレンジセンター



キャンパスストリートプロジェクト



病院ボランティアプロジェクト



チャレンジセンター



広告媒体物(ポスター・チラシ・パンフレット・フリーペーパー)



チャレンジセンター



ニュースリリース(湘南校舎)

月日	内容
5月	サイエンスコミュニケーター 「東海大学金環日食プロジェクト2012」
6月	病院ボランティアプロジェクト 第9回セミナー「病と生きる人々の心・私達ができる支え」を開催
8月	3.11生活復興支援プロジェクト 電子工作教室・夏休みこどもテレビ局上映会を開催 環境キャラバン隊 北海道夕張郡栗山町内の小学校3校で環境教室を実施
10月	ライトパワープロジェクト 代替燃料車による世界最長の自動車レース 「サソール・ソーラーチャレンジ・サウス・アフリカ2012」優勝
11月	ライトパワープロジェクトソーラーカーチーム 世界大会5連覇記念走行会
12月	サイエンスコミュニケーター 「第4回 科学喫茶〜ここまで来た!! 情報ネットワーク〜」を開催 キャンパスストリートプロジェクト 「東海大学クリスマスU-night(ユナイト)！」を開催 Music Art Project 「X'mas Concert」を開催 病院ボランティアプロジェクト 第10回セミナー「本当は間違ってる?あなたの医学知識」を開催
1月	スポーツ社会貢献プロジェクト 第5回スポーツDAYを開催〜スポーツで深まる親子の絆〜 3.11生活復興支援プロジェクト 宮城県名取市図書館「どんぐり・アン みんなの図書館」オープニングイベント 親子で楽しむしおり作りを開催 東海大学チャレンジセンター「2012年度プロジェクト最終報告会」を開催 17のチャレンジプロジェクトが活動実績と成果を発表 Music Art Project 「第4回学生創作オペラNADESHIKO」
2月	環境キャラバン隊 「身近なエコ」をテーマに「環境教室」を実施 ライトパワープロジェクト 「科学技術教室〜未来への鍵〜」を開催〜地域の小学生を対象に理科実験や工作を実施〜
3月	東海大学 学生ロケットプロジェクト・第11期ハイブリッドロケット打ち上げ実験

メディア一覧

プロジェクト・科目名	月日	分類	媒体名
ライトパワープロジェクト	3月30日	雑誌	National Geographic
	3月31日	情報誌	住宅用太陽光発電システムパンフレット
	4月1日	雑誌	VOLT
	4月1日	東海大関連	TOKAI
	4月4日	新聞	東京新聞
	4月13日	Web	NIKKEI Web
	4月25日	雑誌	建築の施工企画
	4月27日	情報誌	みちの明日へ
	5月1日	雑誌	ShinDenki
	5月6日	新聞	秋田さきがけ新聞
	5月14日	新聞	THE NIKKEI WEEKLY
	5月15日	雑誌	Motor Fan Illustrated
	6月1日	その他	電気店店頭POP
	6月1日	雑誌	Shin Denki
	6月28日	雑誌	Motor Fan Illustrated
	7月1日	雑誌	SOLAR JOURNAL
	7月15日	書籍	太陽エネルギーがわかる本
	7月20日	Web	カナロコ
	7月20日	Web	YOMIURI ONLINE
	7月20日	Web	日経電子版
	7月20日	Web	家電Watch
	7月20日	Web	My Town神奈川
	7月20日	Web	財形新聞
	7月20日	Web	F1Express
	7月20日	Web	レスポンス
	7月20日	新聞	神奈川新聞
	7月20日	新聞	朝日新聞
	7月20日	新聞	東京中日スポーツ
	7月20日	新聞	日刊工業新聞
	8月6日	講演	平成24年度大学電気系教員協議会
	8月10日	その他	デイリーサピックス
	8月16日	Web	レスポンス
	8月17日	新聞	日刊自動車新聞
	9月1日	東海大関連	無限
	9月1日	その他	私立大学環境保全協議会協議会誌
	9月8日	TV	tvk テレビ神奈川
	9月13日	ラジオ	FM東京 クロノス
	9月14日	新聞	読売新聞
	9月15日	ラジオ	中国放送
	9月15日	ラジオ	山陰放送
	9月15日	ラジオ	山陽放送
	9月15日	ラジオ	山口放送
	9月18日	新聞	Sunday Times
	9月18日	ラジオ	TM東京
	9月19日	ラジオ	TM東京
9月20日	ラジオ	TM東京	
9月21日	ラジオ	TM東京	
9月22日	ラジオ	TM東京	
9月22日	ラジオ	TM東京	
9月23日	ラジオ	TM東京	
9月23日	ラジオ	TM東京	
9月23日	ラジオ	TM東京	
9月24日	ラジオ	TM東京	
9月25日	ラジオ	TM東京	
9月25日	その他	じっきょう理科資料	
9月26日	ラジオ	TM東京	
9月27日	ラジオ	TM東京	
9月28日	ラジオ	TM東京	
9月29日	新聞	朝日新聞	
10月1日	Web	公式HP	
10月1日	Web	RBB TODAY	
10月1日	Web	家電Watch	
10月1日	Web	産経ニュース	
10月1日	Web	Tech On	
10月1日	Web	Response	
10月1日	Web	SankeiBiz	
10月1日	Web	日本経済新聞Web	

プロジェクト・科目名	月日	分類	媒体名
ライトパワープロジェクト	10月2日	新聞	神奈川新聞
	10月2日	新聞	読売新聞
	10月2日	新聞	毎日新聞
	10月2日	Web	毎日jp
	10月2日	新聞	西日本新聞
	10月2日	新聞	日刊自動車新聞
	10月2日	新聞	電波新聞
	10月2日	新聞	化学工業日報
	10月3日	Web	カナロコ
	10月3日	新聞	毎日小学生新聞
	10月10日	新聞	神奈川新聞
	10月10日	雑誌	XaCAR
	10月13日	新聞	神奈川新聞
	10月15日	雑誌	SOLAR JOURNAL
	10月15日	雑誌	Motor Fan Illustrated
	10月19日	講演	ソフトウェアアクトレイドルユーザーカンファレンス2012講演集
	10月20日	雑誌	driver
	10月21日	新聞	読売新聞
	11月9日	その他	太陽/風力エネルギー講演論文集
	11月10日	ラジオ	スマートアカデミー
	11月10日	雑誌	XaCAR
	11月11日	情報誌	市報にいがた
	11月16日	新聞	新潟日報
	11月16日	TV	NHK(新潟)
	11月16-17日	TV	TeNY テレビ新潟
	11月22日	新聞	日本経済新聞
	11月22日	Web	日本経済新聞Web
	11月22日	新聞	新潟日報
	11月26日	Web	WAOサイエンスパーク
	11月29日	TV	ニュース
	11月29日	新聞	日刊工業新聞
	11月29日	新聞	神奈川新聞
	12月4日	新聞	毎日新聞
12月7日	新聞	科学新聞	
12月11日	新聞	神奈川新聞	
12月29日	TV	TeNY テレビ新潟	
1月1日	情報誌	高翔	
1月23日	Web	Web Japan	
1月31日	雑誌	SOLAR JOURNAL	
2月8日	新聞	日本経済新聞	
2月9日	新聞	読売新聞	
2月9-17日	TV	パナソニック TVCM	
3.11生活復興支援プロジェクト	4月3日	新聞	朝日新聞
	5月9日	新聞	東京新聞
	8月21日	Web	岩手日報
	10月15日	書籍	震災からの教育復興
東海大学 学生ロケットプロジェクト	8月23-25日	新聞	北羽新報
スポーツ社会貢献プロジェクト	1月13日	TV	NHK神奈川ニュース
サイエンスコミュニケーター	5月29日	新聞	神奈川新聞
	12月5日	新聞	日刊工業新聞
Music Art Project	2月22日	情報誌	湘南ジャーナル
	2月	Web	オペラ情報多数
病院ボランティアプロジェクト	12月6日	新聞	日本経済新聞
環境キャラバン隊	9月6日	新聞	北海道新聞
	9月6日	Web	栗山町HP
	9月7日	新聞	朝日新聞
	2月27日	TV	NHK
先端技術コミュニティACOT	5月21日	TV	NNNストレイトニュース
	5月21日	TV	くまパワニュース
	5月21日	TV	ニュース報道
	5月21日	TV	ニュース報道
熊本地域プロデュースプロジェクト	7月22日	新聞	熊本日日新聞
障害者自立支援プロジェクト	10月29日	新聞	神奈川新聞
ジャーナリズム	4月10日	雑誌	中央公論
	9月10日	雑誌	中央公論

# 2012年度活動一覧

### 4月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8 [湘南]ライト:新東名高速道路 走行テスト [湘南]BML:イースターイベント
9	10	11 [湘南]第1回チャレンジ プロジェクト協議会 (今年は毎回全キャンパス参加で開催)	12	13	14	15
16	17 [湘南]コーディネーター 事務研修	18	19	20	21 [湘南]科学技術 チャレンジフェア	22
23/30	24	25	26	27	28 [湘南]ユニークプロジェクト 募集締切	29

### 5月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4 [湘南]ライト:ワールド・エコノ・ムーブ	5 [湘南]スポ社:子どもまつり	6
7	8	9 [湘南]第2回チャレンジ プロジェクト協議会	10	11	12 [湘南]スポ社:てかスポ杯 [湘南]サイエンス:日食科学教室 [湘南]復興支援:ミニどんぐりハウス作り・展示	13
14	15	16	17	18	19	20
21 [湘南]サイエンス:金環祭 [熊本]ACOT:金環日食観測会	22	23	24	25 [湘南]ユニークプロジェクト 採択結果発表	26	27 [湘南]環キャラ: ふれあい祭り in 並木
28	29	30	31 [湘南]ユニークプロジェクト 採択結果発表			

### 6月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6 [湘南]アドバイザーミーティング	7	8	9	10 [湘南]ライト:人力飛行機のテストフライト
11	12	13 [湘南]第3回チャレンジ プロジェクト協議会	14	15	16 [湘南]TICC:スポーツ交流会	17
18	19	20 [湘南]ユニークプロジェクト 説明会	21	22	23 [湘南]第9回チャレンジ センターセミナー	24
25	26	27	28 [湘南]病ボラ:第9回セミナー	29	30	

### 7月

月	火	水	木	金	土	日
						1 [湘南]スポ社:ゼロから始める スポーツ体験教室
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 [湘南]第4回チャレンジ プロジェクト協議会	12 [湘南]MAP:サマーコンサート	13 [湘南]CAP:ThLive Vol.15	14 [湘南]TSRP: サイエンスフェア	15
16	17	18 [湘南]ライト:エコカー教室	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31 [阿蘇]阿蘇振興: ボランティア活動					

### 8月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4 [阿蘇]阿蘇振興: ボランティア活動	5 [湘南]ライト:ものづくり教室
6 [湘南]スポ社:ニューススポーツ教室 [湘南]サイエンス:科学実験教室	7	8 [湘南]病ボラ: 第10回癒しのイベント [湘南]TFC:3支部合同試走会 [湘南]BML:マルチカルチャーキャンプ	9 [湘南]復興支援:電子工作教室	10 [湘南]ライト:人力飛行機のテストフライト	11	12
13 [湘南]ライト:大島復興花火大会	14	15 [湘南]ライト:三陸まつり	16 [阿蘇]阿蘇振興: ボランティア活動	17	18	19
20	21 [湘南]ライト:駐日南アフリカ 共和国特命全権大使激励	22 [湘南]環キャラ: スカベンジJAPAN!	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

### 9月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2 [湘南]スポ社:ステップアップ 卓球教室
3	4	5	6	7	8 [熊本]ACOT:ETロボコン2012九州地区大会	9
						[湘南]TICC:翰林日本語学院交流会
						[湘南]TFC:全日本学生フォーミュラ大会
10	11	12 [湘南]第5回チャレンジ プロジェクト協議会	13	14	15	16
17	18	19	20	21 [湘南]2013年度プロジェクト 応募説明会	22	23
24	25	26	27	28	29	30

### 10月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5 [湘南]ライト:優勝報告会	6 [湘南]環キャラ: キャンドルナイト2012	7
8	9	10 [湘南]第6回チャレンジ プロジェクト協議会	11	12	13 [湘南]プロジェクト中間報告会 [湘南]リーダー研修	14
						[湘南]チャレンジプロジェクトメンバー募集説明会 [湘南]TSRP:2012年国際航空宇宙展
15 [湘南]コーディネーター 中間研修	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27 [湘南]スポ社:スポーツ教室	28
29	30	31				[熊本]あにまる:夢まちランド

### 11月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3 [湘南]MAP:MAP Festa2012 [湘南]スポ社:スポーツ教室	4
						東海大学建学祭
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14 [湘南]第7回チャレンジ プロジェクト協議会	15	16	17 [湘南]スポ社: Youth age a go-gol Festival	18 [湘南]環キャラ: あやせ環境展
						[湘南]ライト:エコソーラーストリートin古町
19	20	21	22	23	24 [湘南]サイエンス:世界一歩行きたい 科学広場in 浦安2012	25 [湘南]TFC: 湘南ヒストリックカークラブ [湘南]復興支援:東北物産販売 ボランティア
26	27 [札幌]ライト: 防犯ボランティア研修会	28	29 [湘南]ライト: 五連覇記念走行会	30		

### 12月

【札幌】福祉除雪★除雪活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
					1 [湘南]MAP:第九のつどい [湘南]環キャラ: 富士市環境フェア	2 [湘南]スポ社: レッドボールフェスタ
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12 [湘南]第8回チャレンジ プロジェクト協議会	13 [湘南]ライト: ソーラーアワード2012受賞	14	15	16
						[湘南]病ボラ: 第11回癒しのイベント
						[湘南]C.A.P.:東海大学クリスマスU-night!
17	18 [札幌]福祉除雪:出陣式	19	20 [湘南]MAP: クリスマスコンサート	21	22 [湘南]復興支援:ふくしまへの架け橋 [湘南]病ボラ:第10回セミナー	23
						[湘南]C.A.P.:東海大学クリスマスU-night!
24/31	25	26	27	28	29	30
						[湘南]C.A.P.:東海大学クリスマスU-night! [湘南]環キャラ:ecocon2012

### 1月

【札幌】福祉除雪★除雪活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
						[湘南]スポ社:第5回東海スポーツDAY
14	15 [湘南]TICC:日中韓Friendship Program	16 [湘南]第9回チャレンジ プロジェクト協議会	17	18	19	20
						[湘南]復興支援:どんぐり・アンみんなの図書室建設開館イベント
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

### 2月

【札幌】福祉除雪★除雪活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
						[湘南]ライト:川崎国際環境技術展2013
4	5 [湘南]チャレンジプロジェクト 最終報告会 [湘南]第10回チャレンジ センターセミナー	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15 [湘南]病ボラ・サイエンス: 東海学級課外授業 [湘南]病ボラ:絵本贈呈式	16	17
18	19	20	21	22	23	24
						[湘南]環キャラ:春期キャラバン
25	26 [湘南]MAP: 創作オペラNADESHIKO	27 [湘南]コーディネーター アドバイザー意見交換会	28			
						[湘南]環キャラ:春期キャラバン

### 3月

【札幌】福祉除雪★除雪活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
						[湘南]TSRP:第11期ハイブリッドロケットプロジェクト
11 [湘南]復興支援:震災特番	12	13	14	15	16	17
						[湘南]TSRP:第11期ハイブリッドロケットプロジェクト
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- |                        |   |                         |                        |                 |
|------------------------|---|-------------------------|------------------------|-----------------|
| ライト:ライトパワープロジェクト       | スポ社:スポーツ社会貢献プロジェクト                          | MAP:Music Art Project   | 共育:Takanawa共育プロジェクト    | 福祉除雪:福祉除雪プロジェクト |
| 復興支援:3.11生活復興支援プロジェクト  | サイエンス:サイエンスコミュニケーター                         | 病ボラ:病院ボランティアプロジェクト      | ACOT:先端技術コミュニティアCOT    |                 |
| TSRP:東海大学学生ロケットプロジェクト  | BML:Bejo Me Liga                            | 環キャラ:環境キャラバン隊           | 阿蘇振興:阿蘇振興コミュニティープロジェクト |                 |
| TFC:Tokai Formula Club | TICC:Tokai International Communication Club | C.A.P.:キャンパスストリートプロジェクト | あにまる:あにまるレスキュープロジェクト   |                 |

湘南校舎…湘南 札幌校舎…札幌 高輪校舎…高輪 熊本校舎…熊本 阿蘇校舎…阿蘇